



# 関西医科大学 広報

*Kansai Medical University Public Relations*

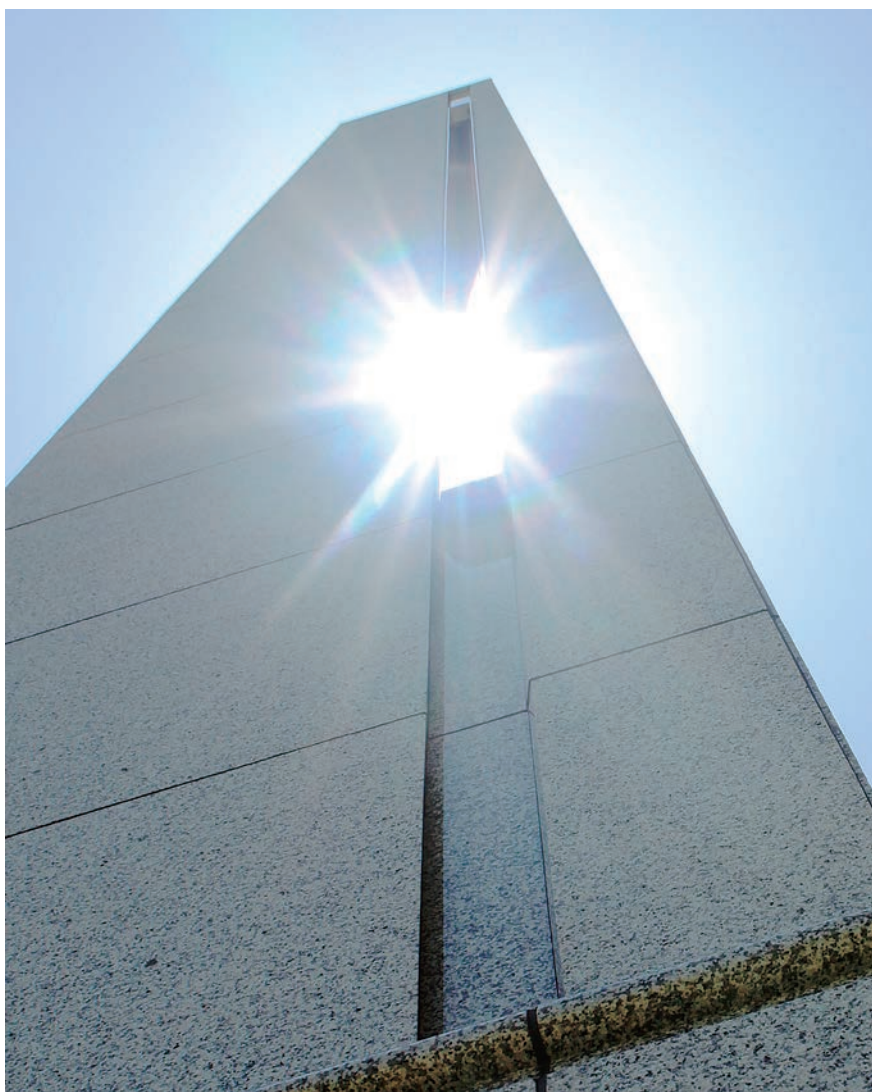


## 建学の精神

本学は、慈仁心鏡、すなわち慈しみ・めぐみ・愛を心の規範として生きる医人を育成することを建学の精神とする。

今号の表紙は枚方学舎のオベリスク(記念塔)の表面に入った縦長のスリット(隙間)を太陽光が通過する写真です。このオベリスクは創立記念日の6月30日正午に、太陽光が足元に置かれた金色のプレートを指し示すよう設計されています。今年には創立85周年の節目で、夏至(6月21日頃)を過ぎた一定期間、光の演出が本学を祝いました。

|| 32ページに関連記事



創立85周年  
祝う光の演出

## CONTENTS

特集	附属病院 診療機能強化	2	病院	26
法人	就任の挨拶	4	卒後臨床研修センター	28
	内部監査	7	附属看護専門学校	29
大学	新学舎施設紹介	9	同窓会	30
	積極展開する入試広報	10	メディア情報	31
	活発に国際交流	13	お知らせ	32

## 特 集

## 附属病院 診療機能強化

2013年は枚方学舎開設を契機に枚方、滝井の両附属病院で様々な診療機能の強化を進めています。診療科や各種センターの新設・再開のほか、最新の医療機器を導入、さらに5名の特命教授・診療教授を迎え入れるなど、大幅な医療体制の整備に注力しています。今号の特集ではその改革の状況を紹介します。

### 附属枚方病院の診療機能強化

#### 増床、増室、機器の強化 3診療教授も着任

開院から8年を迎えた枚方病院は平成25年度、診療機能の更なる強化に向けて様々な取り組みを行っています。医療機器については、最先端の手術が行える内視鏡手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」に加え、4台目となるMRI装置を導入しました。また、神経内科が診療拠点を滝井病院から枚方病院に移したほか、新たに病床の増床を行いました。さらに、診療体制の強化に向けて、これまで充足できていなかった診療部門の呼吸器腫瘍内科に倉田宝保、末梢血管治療科に渋谷卓、乳腺外科に杉江知治の3診療教授がそれぞれ着任しました。今後は歯科・口腔外科の新設、手術室の増設、中央採血室の拡張、外来化学療法室の拡充などを予定しています。

#### クローズアップ

#### ダ・ヴィンチ導入 手術が変わります

「ダ・ヴィンチ」は、1~2cmの小さな創から内視鏡カメラとロボットアームを挿入し、高度な内視鏡手術を行うことができる手術支援ロボットです。術者は3Dのモニター画面を見ながら、あたかも術野に手を入れているようにロボットアームを操作して手術を行います。



3本のアームと内視鏡を操り、術者の手となって執刀するダ・ヴィンチ本体(左)と、術者が3D画像を見ながら本体の動きを遠隔でコントロールする操作機(右)

手元が震えず、精密な動作を可能にし、切開・縫合が正確にできるのが特徴で、手術の安全性の向上と低侵襲を実現した、患者さんに優しいロボットです。国内で設置している病院はまださほど多くありません。

大阪北東部の基幹医療施設である枚方病院は、最新鋭の機種「ダ・ヴィンチSi」を導入しました。この機種では、ロボットアームの操作機(コンソール)が2台あり、指導者が若手医師の手術指導を行うほか、2人の術者が協力して手術をすることも可能です。枚方病院では、8月末頃から腎泌尿器外科の根治的前立腺全摘除術(保険適応あり)で使用し、将来的には外科系各科で先進医療の許認可につなげる方針です。

#### 院内改修・病床増床計画の推進

枚方病院は2013年、手術室の増設、中央採血室の拡張、眼科検査室の設置、卒後臨床研修センターの移設、保育所の拡張等院内の改修を随時行い、さらなる病院機能の充実を目指します。また既に、滝井病院や関係行政機関と調整して12階病棟にある病室以外の諸室を病室に変更し、744床から750床へと増床しました。

#### 歯科・口腔外科の開設

2013年9月には歯科・口腔外科を開設します。周術期患者の口腔ケアとがん診療との連携を図り、医療の質の向上を目指します。

#### 化学療法センターの拡充及びがん治療・緩和センターの設置

従来の医局などが枚方学舎に移るため、病院内の空きスペースに外来化学療法センターを拡充移転するとともに、がん診療の拠点となる「がん治療・緩和センター」を設置し、更なる医療の質の向上と収益向上に努めます。

## 特 集

## 附属滝井病院の診療機能強化

## センター、診療科の新設・再開 最新機器導入など診療機能強化

老朽化が進む滝井病院は大学の旧滝井専門部学舎跡地に300床の本館（仮称）を建設し、2016年春に完成する予定です。その後現在の病院の本館の跡地に広大なホスピタルガーデンを整備し、患者さんの憩いの場所へと生まれ変わります。ホスピタルガーデンが完成する2017年（予定）が新滝井病院のグランドオープンとなります。

このリニューアルまでの間も診療機能の強化に向け、様々な改革を行っています。新たにPET-CTを導入してPETセンターを立ち上げたほか、腎臓病患者の透析治療を専門的に行う透析センターも新設しました。また、医療機器では8月に乳がんの早期発見につながる「3Dマンモグラフィー」を全国で3番目、近畿で初めて導入。さらに、休止状態だった心臓血管病センター、乳腺外科、末梢血管外科をいずれも再開しました。心臓血管病センター長に川副浩平理事長特命教授、乳腺外科診療科長に山本大悟講師、末梢血管外科診療部長に駒井宏好診療教授がそれぞれ新たに着任しました。

## クローズアップ

## 心臓血管病センター再開

## 低侵襲の手術体制と最先端の医療施設を目指します

心臓手術に精通し、患者自身の弁を修復する弁形成術の第一人者である前財団法人聖路加国際病院心臓血管センター長の川副先生を新たにセンター長として迎え入れ、心臓血管病センターが再スタートしました。同センターのコンセプトは、病院のあらゆる機能を活かして総合的かつ包括的な診療を展開することで、診療体制面でも既成の枠組みを超えた組織を構築し、心臓病から四肢末梢血管疾患までの全ての循環器病を包括して、予防医療からリハビリテーションまで総合的に且つ幅広く対応できるセンター作りを進めています。一方で、心臓血管病の治療において、目覚ましい発展を遂げるカテーテルによる低侵襲手術に対応できる体制の整備を進め、最先端の医療を提供できる施設を目指します。

## 近畿で初の3Dマンモグラフィー導入

全国で3番目、近畿では初めてとなる「3Dマンモグラフィー」（三次元乳房X線検査装置）を8月に導入します。この機器は、乳房を2方向から撮影し、専用のメガネで立体的に見ることで乳がんの判別をより正確に行うことが可能です。また、乳がんの早期発見につながることで、投薬の低減や乳房の組織検査を実施しなくて済むなど、患者さんの負担軽減が期待できます。

## PETセンター新設

PETセンターは、5月に最新のPET-CT装置を導入してスタートしました。同センターは、人間ドックのコースにPET-CT検査を加えた本学天満橋総合クリニックと連携し、三大生活習慣病（がん・心疾患・脳血管疾患）をはじめとする疾病の早期発見や疾患予備群の発見に努めています。

## 透析センター新設

透析センターでは血液透析、腹膜透析の腎不全治療に加えて神経疾患、肝疾患、循環器疾患や、各種薬物中毒に対する血液濾過法血漿交換や血液吸着法などの幅広い血液浄化療法を行っています。同センターは、年間約40名の血液透析患者及び約10名の腹膜透析患者、20名の維持腹膜透析患者の外来診察を担当するほか、年間約250名の入院患者の透析を想定しています。滝井病院では既に5年前から「透析療法選択外来」を開設、これから透析を始める患者さんに「血液透析と腹膜透析のどちらを選択するか」をじっくり考えていただく体制を設けており、透析センターの新設によって透析治療の一層の充実が図られています。

## 附属病院各病棟に薬剤師を配置

本学附属病院（枚方、滝井、香里）では随時、各病棟に薬剤師を配置し、病棟薬剤業務の体制を整えています。これにより、医療の高度化及び医師、看護師の負担軽減を図るとともに、医療安全の強化が期待されます。

## 法人

## 就任の挨拶

## 理事長特命教授就任のご挨拶

理事長特命教授（附属滝井病院心臓血管病センター長） 川副 浩平



4月1日付けで特命教授を拝命しました。伝統ある関西医科大学から、重大な使命を与えられましたことを大変光栄に存じております。また一方で、私自身にとりましては、外科医人生に最後の仕上げの機会を与えられたものと大変有難く思っております。理事長はじめ皆様方に心より感謝申し上げます。

まずは附属滝井病院において8年間途絶えておりました心臓外科を再開し、先に開設された末梢血管外科とこれまで孤軍奮闘されてきた循環器内科と協同して、単なるグループではなく新しい循環器診療チームを作ることに邁進したいと思っています。これまで私は、いくつかの施設の立ち上げと組織作りにプレーイングマネージャーとして勤務してきましたので、その経験を活かして期待に添えるよう力を尽くしたいと思っています。

今日における循環器疾患医療はますます専門分化し、治療手段も複雑化しています。冠動脈疾患、弁膜症、心不全、不整脈、大動脈疾患、末梢血管疾患のそれぞれの領域において、薬物治療と外科治療はますます進歩し、またそれ以上にカテーテル治療は新たなテクノロジーの開発によって目覚ましい進展を見せております。これまでの循環器内科だけの言うなれば守りの体制から、あらゆる専門性を備えた攻

撃的なチームに成長して行かなければなりません。スタッフ個々が組織の目指すところを理解して機能を分担する、有機体のようなチームが理想です。このような組織ができれば、結果はおのずからついてくると確信しております。

私自身は社会一般の定年をすでに超えています。滝井病院の職員の皆さんに感じられる情熱は頼もしい限りで幾千の味方です。私も現役であり続けられる限り、滝井病院心臓血管病センターの発展と一外科医が最終章を完結する仕事の、両方の目標を掲げて強い決意で臨んでまいります。どうか皆様には、そんな思いをご理解いただき、ご厚誼ご指導賜りますようお願い申し上げます。

## — 略 歴 —

昭和46年 3月	奈良県立医科大学卒業
昭和46年 5月	東京女子医科大学附属日本心臓血圧研究所外科医療錬士
昭和48年 5月	同 外科助手
昭和53年 5月	国立循環器病センター心臓血管外科医員
昭和59年 7月	同 医長
平成 4年10月	岩手医科大学外科学第三講座教授
平成12年 6月	同 附属循環器医療センターセンター長兼任
平成15年 4月	同 附属病院 病院長兼任
平成18年 7月	医療法人誠光会草津総合病院病院長
平成20年 9月	財団法人聖路加国際病院心臓血管センター長
平成25年 4月	関西医科大学理事長特命教授 関西医科大学附属滝井病院心臓血管病センター長

## 理事長特命教授に就任して

理事長特命教授（附属滝井病院外科診療部長） 吉岡 和彦



4月1日付けで理事長特命教授を拝命致しました。ご推奨いただきました山下理事長に厚く御礼申し上げます。またこのような立場で仕事をさせて頂くことは大変光栄であり感謝致しております。

私は関西医科大学を卒業後、外科学講座の山本政勝、日置紘士郎両教授のご指導を頂くとともにお二人の

お力添えにより英国パーミンガム大学のキースリー教授の下で計4年間、臨床、教育、研究にわたり様々な経験を積むことができ、その後の道を方向づける機会となりました。

私の専門は大腸を中心とする下部消化管の疾患です。大腸癌、炎症性腸疾患、さらに大腸肛門機能性疾患を対象として診療を行ってきました。大腸癌の外科的治療は現在ほとんど腹腔鏡補助下手術で行っています。大腸癌の腹腔鏡補助下手術はすでに保険適応となり広く認知され、患者さんからの要請も強くなっています。直腸癌では腹部の永久人工肛門を回避するために内括約筋の一部を切除するISRといわれる手術も行います。さらに、既に腹会陰直腸切離術を受け永久人工肛門が造設された患者に有茎薄筋移植を利用して新しい肛門を造設する試みも行ってきました。

炎症性腸疾患は内科との連携が重要です。外科の術式はほぼ確立されており、潰瘍性大腸炎に対しては大腸全摘術および回腸囊肛門吻合術。クローン病においては腸管の狭窄が最も多い適応で、できるだけ腸管を切除しない狭窄部の形成術が多く行われます。

便秘や便失禁などの大腸肛門機能性疾患の患者さんが増えています。便失禁は一般には“silent disease”とも呼ばれ、羞恥心のために家族にも症状を訴えることなく病院を受診されることもあります。一般には投薬による治療が行われますが、今後は現在欧米で認可されている仙骨神経刺刺激装置の植え込みなどの特殊な治療法が日本でも行えるようになる予定です。

私の使命の一つは滝井病院の外科の診療の充実と病院全体の運営に微力ながらも貢献することと考えています。滝井病院では心臓外科、血管外科、乳腺外科が今年から新たに加わり、充実した内容の診療が提供できる体制が整いつつあります。

今後各科との連携を深めて患者さんの利益となるよう努力してまいりますので、皆様のご支援ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

## — 略 歴 —

昭和52年 3月	関西医科大学卒業
昭和57年10月	関西医科大学附属男山病院助手
昭和61年 3月	英国パーミンガム大学医学部外科研究員
平成 2年 4月	回生会宝塚病院外科医長
平成 4年 4月	関西医科大学第2外科助手
平成 7年 6月	英国パーミンガム大学医学部外科講師
平成 9年10月	関西医科大学第2外科講師
平成20年11月	関西医科大学外科准教授
平成22年 6月	関西医科大学香里病院副院長、外科部長
平成25年 4月	関西医科大学附属滝井病院外科診療部長、理事長特命教授

法人

就 任 の 挨 拶

## 内科学第一講座呼吸器腫瘍内科診療教授に就任して

内科学第一講座呼吸器腫瘍内科 診療教授 倉田 宝保



4月1日付けにて、関西医科大学内科学第一講座・附属枚方病院呼吸器腫瘍内科診療教授を拝命いたしました倉田宝保と申します。推挙いただきました多くの先生方には心より御礼申し上げます。野村主任教授が主宰されます伝統ある関西医科大学第一内科講座が担当しております呼吸器腫瘍の領域の診療、研究に尽力していく所存でございますので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

呼吸器腫瘍には原発性肺癌、悪性胸膜中皮腫などがありますが、頻度では圧倒的に原発性肺癌が多く、さらにその原発性肺癌は現在の我が国の死亡原因の1位である悪性腫瘍の中でも最も死亡者数の多い癌として知られております。癌医療においては、外科的手術、放射線治療、そして私どもの専門であります化学療法が3本の柱として存在し、病気のひろがり具合や患者の状態によって選択されますが、多くの肺癌症例は見つかった時にはすでに進行していることが多く、化学療法の適応となる症例が多いのが現状です。しかしながら、肺癌に対する化学療法の効果は高いものではなく、よりよい新規の化学療法剤の開発は急務とされております。このような背景の中、一部の肺癌において癌の発生、増殖、進展に大きく関わる遺伝子異常(EGFR遺伝子変異、ALK融合遺伝子変異)が発見され、それらに対する阻害剤が開発されたことでこれまでにない効果が報告されています。

関西医科大学はその立地環境およびこれまでの諸先輩方

の御努力により、大変多くの癌患者がいらっしゃると思っております。私ども腫瘍内科医としての責務は目の前の患者に最適な治療を提供することはもちろんのこと、よりよい治療の開発を行うことでもあります。よりよい治療の開発を行うためには臨床研究、新薬治験を積極的に行うことが必要です。我が国にはいくつかの多施設共同臨床試験グループがあり、それに積極的に参加したいと思っておりますし、近い将来には新薬(分子標的薬)の開発治験を関西医科大学にて行うことを目標としております。

また、関西医科大学は昨年より「がんプロフェッショナル養成推進プラン」に参加しており、若き腫瘍内科医の育成にも力を入れています。多くの癌患者を抱える本院は教育を行う場としては最適であり、癌診療を行う他の診療科の先生方と協力し、全国のトップレベルの癌医療の施設として認知いただけるよう努力して参る所存です。今後とも何とぞご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。

## — 略 歴 —

平成 2年 3月	広島大学医学部医学科卒業
平成 2年 6月	広島大学医学部附属病院内科研修医
平成 5年 6月	国立がんセンター中央病院肺内科レジデント、チーフレジデント
平成 9年 6月	広島大学医学部第2内科医員
平成13年 4月	近畿大学医学部第4内科助手
平成14年 4月	近畿大学医学部腫瘍内科講師
平成17年 4月	兵庫県立成人病センター腫瘍内科医長
平成18年 9月	大阪医科大学化学療法センター講師
平成21年 7月	近畿大学医学部腫瘍内科准教授
平成25年 4月	関西医科大学内科学第一講座呼吸器腫瘍内科診療教授

## 外科学講座末梢血管治療科診療教授に就任して

外科学講座末梢血管治療科 診療教授 渋谷 卓



4月1日付けで関西医科大学外科学講座・末梢血管治療科診療教授に就任しました。まずはご推挙頂きました諸先生方に厚く御礼申し上げます。権雅憲教授のもと、本学の、牽引は近畿地方の血管外科診療の発展に貢献できるよう尽力する所存ですのでよろしくお願ひいたします。

私は大学卒業後大阪大学第2外科に入局し、外科のトレーニングを受けました。教室は消化器外科が主でしたので一般・消化器外科の一部として血管疾患に携わりました。研究室では小口径人工血管の開発で学位を取得しています。大学での診療科再編で旧第1外科を主とした心臓血管外科に編入となり、2000年頃を境に以後は心臓血管外科の一部として血管疾患に携わっています。このように血管外科を消化器外科、心臓血管外科の両側から見てきたのですが、血管外科はどちらにも収まり切れない領域であると実感しています。世界的にもほとんどの諸外国で血管外科はVascular Surgeryとして独立領域として発展してきたことに対し、日本では独り立ちできず現在に至っているのが現状です。このことは患者に十分な治療を受けるチャンスが少ないという弊害をもたらしています。また生活環境・疾患構造の欧米化で日本でも血管疾患は増加しており、今後はこれまでの様な診療体制ではニーズに答えきれなくなるのは明白です。近畿地方の他大学が血管外科を単独科として持たないこの時期に、単独診療科として血管外科を設けて頂いた本学外科

学講座に敬意を表します。

血管外科の守備範囲は大動脈から四肢末梢の動脈、内臓動脈、静脈と広く、治療法も外科的血行再建、血管内治療、薬物療法、運動療法、血管新生治療など多岐にわたります。治療技術の発展は目覚ましく、どんどん新しい治療法が実用化されている発展途上の領域です。今後には非常な可能性を秘めている分野です。若い人たちにこのような血管外科の魅力を伝えたいと思います。

血管疾患は血行再建という部分のみが注目されがちですが、糖尿病、高血圧、脂質異常症、慢性腎不全や創傷の管理が非常に重要であり、これらは多くの分野の先生方との連携が必要です。皆様方にはより一層のご支援ご指導を承りますようお願いいたします。近畿地方に血管外科を根づかせること、関西医大がその牽引者となるべく発展させていきたいと思っております。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願ひいたします。

## — 略 歴 —

昭和61年 3月	川崎医科大学卒業
昭和62年 7月	国立大阪病院外科
平成 2年 7月	天王寺病院外科
平成 3年 7月	大阪大学第二外科
平成 7年 4月	摂津医誠会病院外科・血管外科
平成14年 8月	大阪大学放射線科
平成14年12月	東宝塚さとう病院血管外科部長
平成23年 4月	大阪府立成人病センター心臓血管外科部長
平成25年 4月	関西医科大学外科学講座末梢血管治療科診療教授

法人

就任の挨拶

## 外科学講座乳腺外科診療教授に就任して

外科学講座乳腺外科 診療教授 杉江 知治



4月1日付けで、関西医科大学外科学講座乳腺外科診療教授・附属枚方病院乳腺外科科長を拝命いたしました。ご推挙いただきました諸先生方に厚く御礼申し上げます。

私は、京都生まれの京都育ちで、京都大学医学部卒業後は4年間、一般外科医としての修練を積みました。その後、京都大学大学院医学研究科に入学し、現京都大学医学部長の湊長博先生に師事し、免疫細胞生物学教室にて腫瘍免疫の研究に取り組みました。学位取得後はスタンフォード大学に留学し主に樹状細胞の研究に従事いたしました。このときの経験がいまの臨床研究者としての礎になっていると思います。帰国後は、京都大学や関連施設に一般外科医として勤務いたしました。京都大学の乳腺外科部門の発足に伴い、平成20年からは京都大学に戻り、乳腺外科医として乳癌の診療、研究、教育に従事してまいりました。5年間の在籍ののち、本年4月より本学外科講座乳腺外科担当診療教授として勤務いたしております。

乳癌は女性が罹患する悪性腫瘍の第1位であり、今後益々増加傾向にあります。このような状況の中、乳腺専門医を養成し、質の高い乳癌医療を提供することが急務となっております。本学におきましても、乳腺疾患に対して科学的根拠に沿った治療が実践できる知識と技量を兼ね備えた乳腺専門医を養成してまいります。また、乳腺疾患の特性から女性医師の育成にも力をいれ、出産や育児のために女性が離職することなく仕事が継続できるよう環境整備にも取

り組んで行きたいと考えております。

乳癌手術の潮流は従来の縮小手術から、整容性を重視したoncoplastic surgeryや低侵襲手術へ向かっております。前者については形成外科と連携しながら根治性と整容性を兼ねた外科治療を行っていきたいと考えております。後者については分子イメージングによる腫瘍の可視化によって、皮膚切開の位置や範囲を確認し、手術操作範囲を縮小していくnavigation surgeryを開発していく所存です。

乳腺疾患は癌領域のなかで最もEvidence Based Medicine (EBM) が行われている領域です。私はこれまでの経験を生かし、治験や先進医療を積極的にに行い、新しいevidenceを本学から発信し、関西医科大学が北河内地区のみならず日本の乳癌診療の拠点となるよう努めてまいります。

今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

## — 略 歴 —

昭和62年 3月	京都大学医学部卒業
昭和62年 6月	京都大学医学部附属病院研修医
昭和63年 4月	大阪府済生会野江病院医師
平成 2年 9月	兵庫県立塚口病院医師
平成 9年 1月	京都大学大学院医学研究科博士課程終了
平成 9年 4月	米国スタンフォード大学医学部研究員
平成13年 1月	京都大学大学院医学研究科腫瘍外科助手
平成13年 9月	滋賀県立成人病センター外科医長
平成15年 4月	京都警察病院外科医員
平成20年 1月	京都大学大学院医学研究科乳腺外科助教
平成21年 5月	同 准教授
平成25年 4月	関西医科大学外科学講座乳腺外科診療教授

## 平成24年度 インシデント報告集計

医療安全管理センターでは、このほど附属病院の平成24年度インシデント報告を集計しました。総報告数は9,760件で、患者さんへの影響レベル別にした件数は、下表のとおりです。なお、インシデント報告は過失の有無とは無関係で医療行為とは直接関係のないものも含めて集計しています。

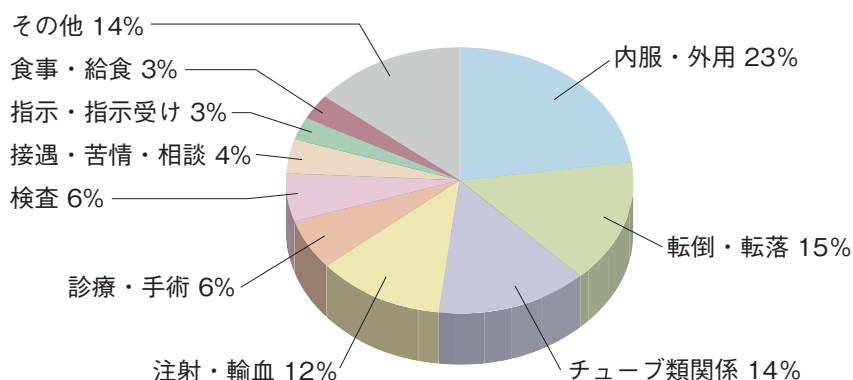
## ■「内服・外用」「転倒・転落」「チューブ関係」「注射・輸血」が6割以上

インシデント内容は、(1) 内服・外用、(2) 転倒・転落、(3) チューブ類、(4) 注射・輸血に関するものが多く、これらで全体の6割以上を占めています。同センターでは、今後も附属病院の事例検討を通じて、情報や対策の共有を図り、大学全体の医療安全向上を目指します。

患者への影響レベル別  
インシデント報告数

事故が発生する前に気がついた	1,419件
事故は発生したが患者への実害はなかった	4,947件
観察強化などが必要であるが、処置や治療は不要であった	2,326件
処置や治療を要した	1,068件
総 計	9,760件

発生の主な要因



## 法人

## 5月度理事会・評議会で平成24年度事業報告発表

5月22日(水)の理事会・評議会で「平成24年度事業報告」が発表されました。法人全体概要と役員・評議員の就退任については以下の通りです。

## ◆法人全体概要(原文を転載)

枚方新学舎が平成25年1月末に完成し、同年3月の竣工式・披露宴を経て平成25年4月から供用を開始した。附属滝井病院リニューアル事業は基本構想・基本計画を策定した後、基本設計図書を元に競争入札を開始した。建設業者の決定は平成25年5月の予定である。

人事給与制度改革は、平成23年度から一般職を対象に試行を開始していた「目標管理制度」は、その目的を新たに「人財の育成」と定め、また、その名称を「目標チャレンジ制度」と改めて、平成25年度から本格実施の運びとなった。

理事長直轄作業部会のうち、「収益向上作業部会」と「大学(法人)支出削減作業部会」は医療収入の増加と高収益体質の構築を目標に活動し、法人の盤石な財務基盤の確立に寄与し得た。これらの部会は次年度にもその活動が引き継がれる。

入試関連では、平成25年度から大学入試センター試

験の導入、一般入試の東京会場新設、文部科学省から2名の研究医養成のための入学定員増の認可を得た。さらに、入試広報並びにオープンキャンパスの活性化にも取り組んだ。平成25年度の入学生から学納金の値下げを実施し、6年間で総額200万円を減額したことにより志願者が倍増した。

各附属病院は「感染症対策」と「医療安全」に配慮しながら、患者数の増加や医療の質の向上に特段の努力を行った。結果的に枚方病院は予算を大幅に上回る好成績を達成、滝井病院は僅かながら予算を達成し得、香里病院は予算未達ながらも黒字化が図られた。経営統合した天満橋総合クリニックは施設専有面積の拡張を行い、施設のリニューアルと診療機器の整備に着手した。

平成24年度の法人帰属収支差額は5,091百万円を達成し得た。この値は前年度比779百万円の増加であり、学校法人の健全な経営体質と全職員の努力が示された。

## ◆役員・評議員就退任(転載)

役員・評議員人事

理事・評議員	今村 洋二	平成25年3月31日	退任	理事・評議員	澤田 敏	平成25年4月1日	条項変更
評議員	吉本 康明	同上	同上	評議員	四方 伸明	同上	就任
評議員	高田 秀穂	同上	辞任	評議員	三谷 武生	同上	同上
評議員	梅壽 圭吾	同上	同上	監事	今村 洋二	平成25年4月15日	同上

## 平成24年度、25年度の内部監査

内部監査室長 稲垣 千代子

平成24年度内部監査を下記の項目で実施し、平成25年度内部監査計画を理事長に提出して承認された。本年度の内部監査も本学の業務が合法的且つ合理的・効率的に遂行されることを目指して評価し、本学の発展に資する助言ができるよう努める。

## 1. 平成24年度内部監査

以下の項目について点検・調査し、問題点の改善に向けて助言した。

## 年次監査

- 1)「研究・教育補助金の管理状況(平成23年度対象)」
- 2)「研究補助金管理のモニタリング(平成24年度対象)」
- 3)「災害対応体制」

## 理事長・学長特命監査

- 4)「診療報酬請求に係る施設基準の充足状況」

## 2. 平成25年度内部監査計画

## 年次監査

- 1)監査項目：研究・教育補助金の管理状況(平成24年度対象)  
監査対象部署：大学事務部研究課及び関連部署

監査日程：平成25年7月～8月

- 2)監査項目：研究補助金管理のモニタリング(平成25年度対象)

監査対象部署：大学事務部研究課及び関連部署

監査日程：平成25年12月～平成26年2月

- 3)監査項目：物品調達業務

監査対象部署：物流センター

監査日程：平成25年9月～10月

- 4)監査項目：内部監査の定期的内部評価

監査対象部署：内部監査室(基本規程、基準、倫理綱要の遵守状況、組織体の運営を改善しているか、継続的改善活動の実施状況)

監査日程：平成25年11月～12月

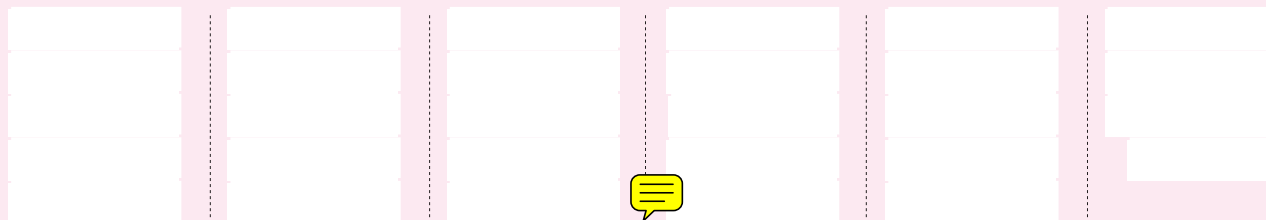
## 法人

## 寄付金

枚方キャンパス統合移転整備事業寄付金として平成25年4月1日から平成25年6月30日までにご寄付いただきました方々のご芳名（五十音順）を掲載させていただきます。ご芳志に対して衷心より感謝申し上げます。

なお、募集当初から平成25年6月30日までの寄付金累計額は9億1,596万6千円です。

<個人>



<法人>



## 関西医科大学枚方キャンパス統合移転整備事業募金のご案内

平成25年12月末まで募集していますので、ご協力をお願いします。

## 1. 募集対象

同窓会会員、本学学生の保護者、教職員、本学関連の個人および法人

## 2. 募集金額

1口10万円

1口未満でも申し受けます。

## 3. 申込方法

寄付申込書に所定事項をご記入ご捺印の上、お申込ください。寄付申込書は下記の3種類がありますので、いずれかをご提出ください。

・個人の場合：特定公益増進法人申込書

・法人の場合：

- (1) 特定公益増進法人申込書
- (2) 受配者指定寄付金申込書

## 4. お問い合わせ先

関西医科大学枚方キャンパス統合移転整備事業募金委員会事務局

〒573-1010 大阪府枚方市新町2-5-1

Tel：072-804-2146(直通)

Fax：072-804-2344

E-mail：bokin@hirakata.kmu.ac.jp

URL：http://www.kmu.ac.jp/bokin/index.html

## 関西医科大学新学舎完成記念の記章を制作

本学は枚方新学舎完成を契機に、今以上に教職員の愛校心を高めようと、記念の記章を制作しました。この記章は、本学の副章の梅をモチーフにしており、スマートでデザイン性が高く仕上がっています。「枚方キャンパス統合移転整備事業募金」への寄付者には既にお配りしています。教職員はぜひ、学内外で行われる行事などに出席する際に着用し、学園に対する帰属意識を高めましょう。今後、歴史資料室に展示し、販売する予定ですので、まだ持っていない教職員はぜひ購入して下さい。

また、学外の寄付者には少し大きめのサイズを、女性用には赤色でさらに大きめのサイズのをそれぞれ制作し、配布しています。



新学舎完成記念の記章



大 学

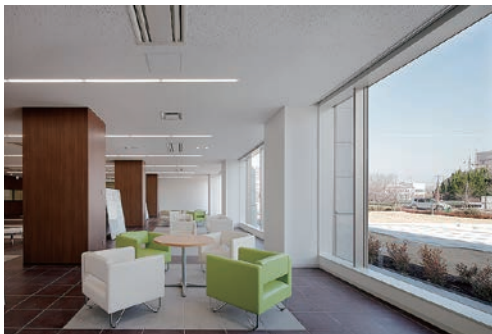
新学舎施設紹介

1学期を終え、学生も枚方学舎での生活に慣れてきた頃でしょう。今号ではアメニティーが充実している枚方学舎において、休憩時間などで使用できるスペースを紹介します。

オープンラウンジは情報収集の場

正門を入ってすぐの所にオープンラウンジがあります。窓側だけでなくロビー側もガラス張りの開放的な空間で、学生たちの情報交換や活発な交流の場となっています。ラウンジにはスタイリッシュなソファやベンチが設置され、学生が休憩時間に利用するほか、大型のマガジンラックには新聞や情報誌、医学雑誌が置かれ、学生たちが情報収集しています。また、ラウンジ内には、留

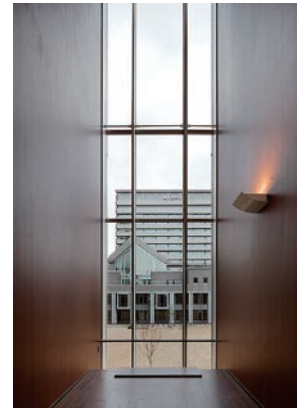
学生が集うオープンラウンジ



学生の交流の場である国際交流センターがあります。

各所の休憩スペースでリフレッシュ

新学舎は各所に休憩スペースが設けられています。中でも、2～3階の廊下に設けられた「デッキボックス」というスペースは個室のような雰囲気のお洒落な空間で、中庭面がガラス張りになっています。休憩時間に腰掛け、緑豊かな中庭を眺めながら、のんびりとくつろぐ学生の姿も見られます。デッキボックスは2～3階に計6箇所あります。ぜひ活用し、次の授業に向けてリフレッシュしましょう。



学生の憩いのスペース「デッキボックス」

新しく生まれ変わった附属図書館

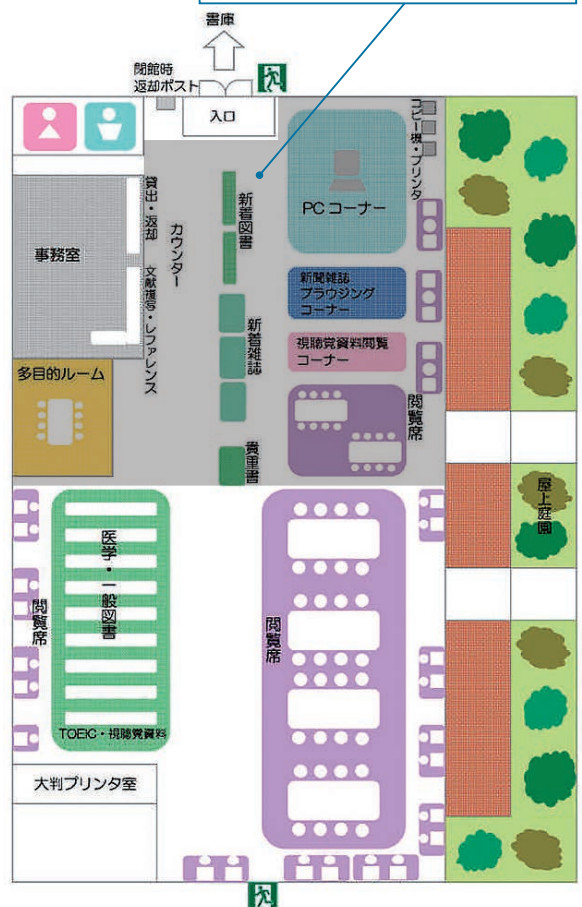
附属図書館は教養部分館と枚方分室を統合し、館内全体にゆったりとしたくつろぎの空間を演出するとともに利用者ニーズを取り入れた新たな図書館として生まれ変わりました。館内面積のおよそ半分をコミュニケーションエリア（右図のグレー部分）とし、協調学習を支援するラーニング commons 的な利用を促しています。また、様々な利用者のニーズに合ったタイプの席や個室を充実させ、居心地の良い空間となっています。

図書館のある3階は学生食堂、シミュレーションセンター、19室の学生セミナー室、歴史資料室などが配置され、学生が利用しやすい動線上に位置することも一因ですが、現在のところ入館者数は旧図書館の約3倍増、その9割以上を学生が占め、学生が利用しやすい図書館という特色がより一層明確になっています。また、図書館に隣接する屋上庭園は、芝生や樹木、遠景の山々を眺めることができるリフレッシュゾーンとして、自由に入出りができる空間となっています。

資料面では、本学の「6年一貫教育カリキュラム（医学教育改革）」に適した学術情報の整備に努め、今後は電子書籍の利用や電子ジャーナルの充実を進めるなど、さらなる利便性の向上を目指しています。また、ネットワーク環境としては、図書館には有線LAN接続の10台のPCが設置され、各自の携帯用機器等を活用できる無線LAN環境も整備されています。

図書館ホームページは新学舎オープンと同時期にリニューアルを行い、大学のホームページとの統一感のあるデザインに改めました。館内の大型ディスプレイでは、図書館主催の様々な講習会や利用案内等の情報を発信し、利用者の声や要望に応じています。

コミュニケーションエリア(グレー部分)



図書館のフロア図

## 大 学

## 積極展開する入試広報 受験生に広くPR

平成26年度入試に向けて、本学では「関西医科大学は進化する」のテーマのもと、受験生に対する広報活動を展開しています。各地で開催される入試相談会に積極的に参加するほか、オープンキャンパスの回数を例年よりも増やすなど、活発に繰り広げる今年の入試イベントの最前線をレポートします。

## オープンキャンパス 今年2回開催

オープンキャンパスは8月3日(土)、11日(日)の両日に枚方学舎を主会場に開催されます。今年は、4月にオープンした枚方学舎での初開催となり、これまで以上に充実した企画内容となっています。一人でも多くの受験生、保護者にご来場いただき、本学の魅力を感じ取ってもらえるよう、教職員一同、多数の皆様のご来場をお待ちしています。

## 〈オープンキャンパスの概要〉

- 開催日 8月3日(土)、11日(日)
- 時間 12:50~17:30(受付は12:30~16:00)  
※事前申込み不要。ただし、病院施設見学(8月3日のみ)は要予約
- 主な内容
  - ・キャンパスライフ説明
  - ・個別相談会
  - ・カリキュラム説明
  - ・体験コーナー
  - ・入試概要説明
  - ・研究内容紹介(パネル展示)
  - ・模擬講義
  - ・キャンパス施設見学
  - ・病院施設見学(8月3日のみ)

平成26年度入試用パンフレットの表紙



## 入試イベントに積極参加

今年は試験会場が増えることもあって、各所で開催される入試相談会の参加回数を例年よりも増やし、6月から随時、受験生に向けてPRしています。昨年も参加した大規模な合同入試説明会「夢ナビライブ」については、6月の京都、大阪の両会場に加え、9月の福岡会場にもPRブースを出展する予定です。会場には多くの高校生や保護者が来場し、本学の出展ブースには京都会場に3,564名、大阪会場に13,231名がそれぞれ訪問しました。また、このイベントの目玉企画である各大学の教員による「講義ライブ」では、木下洋学長特命教授が「赤ちゃんの呼吸困難をどう助けるのか?」をテーマに30分のミニ講義を行い、集まった受験生に本学の授業の魅力を伝えました。

## ■本学が出展予定の8月以降の入試イベント (7月10日現在、確定分のみ掲載)

日時	イベント名	会場
8月 3日(土) 11:00	私立医科大学合同入試説明会・相談会	順天堂大学(東京)
8月 6日(火) 12:00	私立医科系大学進学相談会	新大阪ブリックビル
8月 9日(金) 12:00	私立医科系大学進学相談会	FFBホール(福岡)
8月10日(土) 11:00	全国医学部進学相談会	北九州国際会議場(福岡)
8月15日(木) 12:00	私立医科系大学進学相談会	ミッドランドホール(愛知)
8月18日(日) 13:00	医系大学フェア	阪急ターミナルスクエア(大阪)
8月24日(土) 11:00	私立医科大学合同入試説明会・相談会	本学枚方学舎(大阪)
8月25日(日) 13:00	医系大学フェア	ビッグバンお茶の水校(東京)
9月 7日(土) 11:00	私立医科大学合同入試説明会・相談会	福岡大学
9月22日(日) 12:00	医系大学入試相談会	TKP市ヶ谷カンファレンスセンター(東京)
9月23日(祝・月)11:00	私立医科大学合同入試説明会・相談会	埼玉医科大学
10月 5日(土) 13:00	全国医歯薬科大学受験説明会	大阪城ホール・城見ホール
10月19日(土) 11:00	夢ナビライブ2013	マリメッセ福岡
10月19日(土) 12:00	医学部医学科ガイダンス	河合塾大阪校医進館
10月19日(土) 13:00	全国医歯薬科大学受験説明会	新宿エルタワー(東京)
11月23日(祝・土)10:00	医進フェスタ2013	河合塾大阪校医進館

## 大 学

## 平成26年度入試概要

## 【推薦入試】

- 募集人員：約10名
- 募集区分：特別枠のみ、専願
- 願書受付期間：平成25年11月1日(金)～11月15日(金)
- 出願要件：
  - ①高等学校卒業見込みの者で全体および6教科の評定平均値が共に4.0以上
  - ②心身共に健全で、人物・学力に優れ、学校長が推薦する者
- 選抜方法  
第1次試験：出願書類をもとに書類選考

- 第2次試験：第1次試験の合格者に実施
  - (1)小論文
  - (2)適性検査(数理的問題、英文問題含む)
  - (3)面接(集団・個別)
- 第1次試験結果通知日：平成25年11月21日(木)
- 第2次試験日：平成25年11月24日(日)
- 第2次試験場所：本学枚方学舎
- 第2次試験合格者発表日：平成25年11月29日(金)

## 【センター試験利用入試】

- 募集人員：約15名
- 募集区分：一般枠
- 願書受付期間：平成25年12月16日(月)～平成26年1月17日(金)
- 出願要件：
  - ①高等学校卒業見込みの者および高等学校を卒業した者
  - ②大検および高卒認定試験の合格者
  - ③外国における12年の課程を修了した者、その他文部科学大臣が指定した者
- 第1次試験日：《大学入試センター試験日》
- 平成26年1月18日(土)～平成26年1月19日(日)

- 第1次試験合格者発表日：平成26年2月6日(木)
- 選抜方法  
第1次試験科目  
国語：「国語」(近代以降の文章のみ)  
数学：「数学Ⅰ・数学A」「数学Ⅱ・数学B」の2科目必須  
理科：「物理Ⅰ」「化学Ⅰ」「生物Ⅰ」から2科目選択  
外国語：「英語」(リスニング含む)
- 第2次試験：面接(第1次試験合格者に対して実施)
- 第2次試験日：平成26年2月9日(日)
- 第2次試験場所：本学枚方学舎
- 第2次試験合格者発表日：平成26年2月14日(金)

## 【一般入試・前期】

- 募集人員：約80名
- 募集区分：一般枠(若干名、特別枠を募集する場合がある)
- 願書受付期間：平成25年12月16日(月)～平成26年1月16日(木)
- 出願要件：
  - ①高等学校卒業見込みの者および高等学校を卒業した者
  - ②大検および高卒認定試験の合格者
  - ③外国における12年の課程を修了した者、その他文部科学大臣が指定した者
- 選抜方法  
第1次試験：入学者選抜学力検査実施教科・科目
  - (1)数学：数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学A、数学B、数学C  
※数学Bのうち「統計とコンピュータ」「数値計算とコンピュータ」を除く
  - (2)理科：「物理Ⅰ・物理Ⅱ」「化学Ⅰ・化学Ⅱ」「生物Ⅰ・生物Ⅱ」の3科目から2科目選択(試験場

- で問題配布後、選択)
- ※物理Ⅱのうち「物質と原子」と「原子と原子核」の両範囲から1題ずつ出題する場合は、どちらか1題を選択するものとする。
- (3)外国語：英語Ⅰ、英語Ⅱ、リーディング、ライティング
- (4)小論文
- 第1次試験日：平成26年1月25日(土)
- 第1次試験場所：
  - 大阪会場：インテックス大阪
  - 東京会場：TKPガーデンシティ品川
  - 名古屋会場：TKP名古屋駅前カンファレンスセンター
  - 福岡会場：南近代ビル
- 第1次試験合格者発表：平成26年2月6日(木)
- 第2次試験：面接(第1次試験合格者に対して実施)
- 第2次試験日：平成26年2月9日(日)
- 第2次試験場所：本学枚方学舎
- 第2次試験合格者発表：平成26年2月14日(金)

## 【一般入試・後期】

- 募集人員：約7名
- 募集区分：一般枠
- 願書受付期間：平成26年2月5日(水)～平成26年2月28日(金)
- 出願要件：
  - ①高等学校卒業見込みの者および高等学校を卒業した者
  - ②大検および高卒認定試験の合格者
  - ③外国における12年の課程を修了した者、その他文部科学大臣が指定した者
- 選抜方法  
第1次試験：入学者選抜学力検査実施教科・科目
  - (1)数学：数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学A、数学B、数学C  
※数学Bのうち「統計とコンピュータ」「数値計算とコンピュータ」を除く

- (2)理科：「物理Ⅰ・物理Ⅱ」「化学Ⅰ・化学Ⅱ」「生物Ⅰ・生物Ⅱ」の3科目から2科目選択(試験場で問題配布後選択)。
- ※物理Ⅱのうち「物質と原子」と「原子と原子核」の両範囲から1題ずつ出題する場合は、どちらか1題を選択するものとする。
- (3)外国語：英語Ⅰ、英語Ⅱ、リーディング、ライティング
- (4)小論文
- 第1次試験日：平成26年3月9日(日)
- 第1次試験場所：インテックス大阪
- 第1次試験合格者発表：平成26年3月16日(日)
- 第2次試験：面接(第1次試験合格者に対して実施)
- 第2次試験日：平成26年3月18日(火)
- 第2次試験場所：本学枚方学舎
- 第2次試験合格者発表：平成26年3月21日(祝・金)

※詳細は、本学ホームページ (<http://www.kmu.ac.jp/admissions/index.html>) をご確認ください。

## 大 学

## 平成26年度関西医科大学大学院医学研究科学生募集要項(博士課程)

## 〈募集人員〉

- ・医科学専攻(代謝機能制御系、高次機能制御系、生体応答系、社会環境医療系)計30名(前後期の合計)
- ・先端医療学専攻(修復医療応用系、ブレインメディカルサイエンス系)計20名(前後期の合計)

## 〈願書受付期間〉

- 前期 平成25年7月16日(火)～平成25年8月23日(金)
- 後期 平成26年1月7日(火)～平成26年2月7日(金)

## 〈試験期日、試験科目及び場所〉

試験期日		試験科目	場所
前期：平成25年 9月 7日(土)	午前9時30分～12時(筆記試験)	外国語(英語)	関西医科大学枚方学舎 1階「試験・実習室」
後期：平成26年 2月15日(土)			
		専攻別授業科目	当日通知

## 〈合格発表日〉

前期	平成25年10月 9日(水)	正午に本学大学院掲示板に掲示するとともに、願書に記入された合格通知場所宛に通知する。
後期	平成26年 3月12日(水)	

※出願書類など詳細はホームページ(<http://www.kmu.ac.jp/admissions/index.html>)をご覧ください。

## ◆4～6月の主な行事 (前号に掲載した行事は除く)

日程	行事名	場 所
5月2日	留学生歓迎会	枚方学舎
5月15日	解剖体追悼法要	建仁寺
6月1日	白菊会総会	枚方学舎

日程	行事名	場 所
6月14日	学内学術集談会	枚方学舎
6月15日	病態分子イメージングセンターAnnual meeting	枚方学舎
6月15日	新任教員教育ワークショップ	枚方学舎

## 解剖体追悼法要及び遺骨返還式を挙げる



追悼の辞を述べる山下理事長・学長

5月15日(水)午前10時から、京都市東山区の建仁寺において「第83回解剖体追悼法要」が営まれ、医学教育発展のために献体いただいた故人のご遺族、白菊会会員のほか、本学から山下敏夫理事長・学長をはじめとする教職員や学生ら246名が参列しました。山下理事長・学長が追悼の辞を述べ、僧侶による読経が行われた後、参列者全員が焼香し、献体された個人へ感謝を捧げご冥福をお祈りしました。法要の後、午前11時から同寺において遺骨返還式が執り行われ、山下理事長・学長からの感謝の言葉の後、17柱の遺骨がご遺族に返還され、併せて文部科学大臣からの感謝状が贈呈されました。

## 第32回関西医科大学白菊会総会を開催

6月1日(土)午後1時から、枚方学舎加多乃講堂を主会場に(第1講義室へ同時中継)第32回関西医科大学白菊会総会が開催され、白菊会会員226名のほか、山下敏夫理事長・学長をはじめ解剖学、病理学各講座の関係教員が出席しました。総会では黙祷の後、本学の学生混声合唱団「コールクライス」のリードのもと「白菊会の歌」を斉唱し、続いて山下理事長・学長と平野利夫白菊会会長の挨拶が行われ、さらに同会役員の紹介がありました。

議事では白菊会行事報告、会計報告及び会計監査報告があり、それぞれ承認されました。今回は卒寿を迎えた方が全員欠席されたため、お名前のみ読み上げられました。最後は出席者全員による記念撮影が行われました。



加多乃講堂を主会場に開催された白菊会総会

## 大 学

## 活発に国際交流

## マレーシア国立循環器病センター長ご夫妻が来学



表敬訪問されたマレーシア国立循環器病センター長ご夫妻を囲んでの記念撮影の様子

2006年に本学と国際交流協定の締結がなされ、その後、6学年国外臨床実習として16名の本学学生を受け入れていただいているマレーシア国立循環器病センターのDr. Mohd Azhari Yakubセンター長ご夫妻が6月12日(水)に本学を表敬訪問されました。ご夫妻と山下敏夫理事長・学長、友田幸一副学長・国際交流センター長、岡田隆之助教(胸部心臓血管外科学講座)によって、医学教育をはじめとした人的交流を今後も推進していくことなどに関する意見交換が、終始和やかな雰囲気で行われました。この後、友田センター長、岡田助教とともに学舎を見学、さらに場所を附属枚方病院13階レストランのぞみに移し、今年国外臨床実習生として派遣された6学年の泉侑希さん、加藤恵さんを交えたランチミーティングが行われました。

## 和やかムードで交流 留学生歓迎会

5月2日(木)午後6時から、枚方学舎3階学生食堂において、国際交流センター主催による留学生歓迎会が開催され、留学生9名、教職員14名の計23名が参加しました。友田副学長・国際交流センター長による開会挨拶の後、モンゴル、ベトナム、中国、ラオス、インドネシア、ソロモン諸島など、各国の留学生が日本語、英語、母国語を交えて自己紹介し、和やかな雰囲気に包まれる中、親睦を深めました。



歓迎会で親睦を深めた留学生ら



## 健康いきいき通信

## 第2回 「熱中症」

新入生は学生生活にも慣れ、クラブ活動も盛んな季節です。近年ではこの時期に熱中症が話題になることが多くなりました。もともと日本の夏は高温多湿、不快指数は高く、生物には厳しい条件だったのですが、地球温暖化の影響もあり、とうとう人間の体温調節機能が間に合わないような気候になったということなのでしょう。

もともと日本人は、高温多湿の環境のなかで生きるためにさまざまな工夫をしてきました。西洋文明から見れば裸同然の薄着、毎日の入浴、素足の生活、打ち水、高床で風通しのよい住まい…今はそのような習慣の多くは失われ、気温だけが高くなっています。近年のクールビズの発想は自然に適應する昔ながらの方法ともいえます。

ところで、近年の熱中症は高齢者が問題になることが多いようです。「これくらいは我慢してきた。昔はエアコンなどなかった」という過去の経験、加えて加齢による体温上昇に対する感覚の衰えがあるため、室内の高温への対応が遅れてしまうのです。気温は20年前とは違い、住居の構造も違い、体力は衰えています。無理せずに日中はエアコンを使用し、電解質を含んだ水分補給が大切です。

一方、学生に起きるのは、クラブ活動中の熱中症です。高温の炎天下での無理な活動が原因となります。近年の異常な高温を認識し、無理な活動を避けること、医学生らしく失われた水分や電解質を適切に補給する態度を持ちましょう。

学医 福永 幹彦(心臓内科学講座教授)

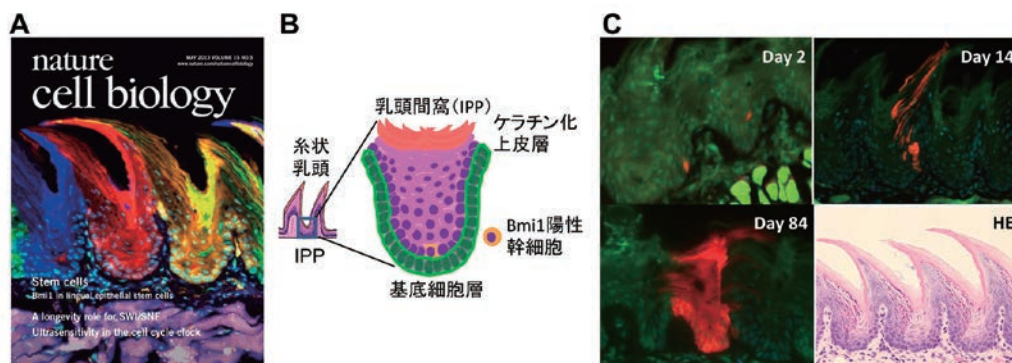
## 大 学

## 上野教授のグループが舌上皮組織を産生する舌上皮幹細胞を世界で初めて発見 ～舌がんの発生機序解明や新たな治療法の開発、舌上皮組織の再生技術開発への進展期待～

舌の表面のざらざら(舌糸状乳頭)を構成し、舌苔や舌がんの原因となる舌上皮組織を産生する舌上皮幹細胞を本学医学部大学院(幹細胞病理学)の上野博夫教授と田中敏宏研究員のグループが世界で初めて発見し、英科学誌ネイチャー・セル・

バイオロジー5月号に発表しました。成果は同号の表紙を飾り、またこの論文に関する記事が6月6日(木)の朝日新聞科学面に掲載されました。本研究は上野教授が研究代表者を務める内閣府最先端・次世代研究開発支援プログラムによる支援を受けています。

舌上皮組織は摂食物や感染などによる障害を受けやすい組織で、約5日に1度全ての細胞が置き換わるなど非常に高い再生能力のある組織であることが知られていましたが、それを支える幹細胞は、これまで見つかっていませんでした。研究グループはBmi1という遺伝子を高発現する細胞に遺伝子組み換え技術を利用して蛍光蛋白質遺伝子を恒常的に発現させる方法にて、舌上皮長期幹細胞が舌糸状乳頭間窩の底部に存在する事を証明しました。また、舌上皮組織に人為的に障害を与えると舌上皮幹細胞により組織が再生される事を明らかにしています。今後は舌がんの発生機序や新たな治療法の開発、舌上皮組織の再生技術開発などへの進展が期待されます。



**A** Nat Cell Biol 5月号表紙に紹介された本研究の実験結果。  
**B** 糸状乳頭間窩における舌上皮幹細胞(Stem Cells)の位置を示す模式図。  
**C** 舌上皮幹細胞の同定。Bmi1陽性幹細胞を蛍光標識し、その子孫細胞の命運を追跡した。

## 病態分子イメージングセンター研究報告



冒頭、挨拶する伊藤センター長

6月15日(土)午前10時から、枚方学舎4階中会議室で「第2回病態分子イメージングセンターAnnual meeting」が開催され、67名の教員や大学院生が参加しました。同センターは「平成23年度に文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」に採択された事業で、最先端の分子イメージングシステムを駆使して、患者と動物モデルの疾患の病態を分子から個体まで体系的に解明し、課題とする疾患の診断治療法の開発に結びつける研究拠点を形成することを目的としています。この日はインターネットを通じてカナダ、アメリカ合衆国との双方向中継が行われ、海外からMin Zhuo先生(University of Toronto)、John A Hanover(NIH)がインターネットで参加したほか、山本雅先生(前東京大学医科学研究所所長)を招聘、事業の評価委員会も兼ねて開かれました。伊藤誠二病態分子イメージングセンター長の冒頭の挨拶の後、3部編成で研究報告がありました。

## 第129回学内学術集談会開催

「第129回関西医科大学学内学術集談会」が6月14日(金)午後3時から、加多乃講堂で開催されました。今回は整形外科科学講座が世話講座で、冒頭、同講座の飯田寛和教授が挨拶しました。この後、飯田教授の座長のもと、整形外科科学講座・枚方病院リハビリテーション科の長谷公隆診療教授が「運動器疾患に対するリハビリテーションの展開」をテーマに特別講演を行い、物理学に基づくリハビリテーション医療の昨今の展開について解説しました。続いて、内科学第一講座の伊藤量基准教授が座長を務め、3名の医学会賞応募演題の口演があり、耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座の島野卓史助教が医学会賞を受賞しました。また、一般演題では整形外科科学講座の串田剛俊講師が座長を務め、同講座の中村知寿先生、麻酔科学講座の廣田喜一准教授がそれぞれ講演、さらに、今回からプログラムに組み込まれた「話題提供」では、串田講師が「骨粗鬆症の最近の話題」と題して講演しました。



特別講演する長谷診療教授

## 大 学

## 新任教員教育ワークショップ開催

医学教育に関する  
新任教員ら  
意見交換



6月15日(土)午後1時から、枚方学舎1階加多乃講堂において新任教員教育ワークショップが、山下敏夫理事長・学長(ディレクター)、友田幸一副学長・教務部長(サブディレクター)、福永幹彦教授(チーフタスクフォース)、野村昌作教授、小宮山豊講師、河本慶子助教ら各タスクフォース、及び新任教員53名の参加のもと開催されました。福永チーフタスクフォースの司会で、個別テーマ「本学のカリキュラムについて」「本学のチュートリアル教育」「本学のOSCE、Advanced OSCE」「本学のクリニカル・クラークシップ」の講演がありました。その後、友田サブディレクター、福永チーフタスクフォース、タスクフォース3名によるパネルディスカッションが行われ、本学の医学教育について活発な意見交換がなされました。また、終了後は参加者に修了証が授与されました。

## 平成25年度科学研究費助成事業(科学研究費補助金)交付内定者(代表者)一覧(文部科学省・日本学術振興会)

(単位:円)

研究種目等	研究代表者			研究課題	交付内定額	
					直接経費	間接経費
新学術領域研究 新規	分子遺伝学部門	植田 祥啓	講 師	自己反応性T細胞の胸腺組織内3次元機能的動態イメージング	4,000,000	1,200,000
新学術領域研究 継続	分子遺伝学部門	木梨 達雄	教 授	細胞接着の時空間制御による免疫動態調節機構	12,400,000	3,720,000
	医化学	矢尾 育子	准教授	質量分析イメージングによる脳内環境の可視化	5,000,000	1,500,000
基盤研究(B)一般 継続	内科学第二	塩島 一朗	教 授	インスリンシグナルによる心機能調節機構の解明	4,300,000	1,290,000
	救急医学	中谷 壽男	教 授	脊髄損傷に対する新たな治療法の確立:培養自家骨髄間質細胞の髄液内投与	3,100,000	930,000
基盤研究(B)海外 継続	公衆衛生学	西山 利正	教 授	マラウィ共和国におけるビルハルツ住血吸虫症の実相調査-集団治療とその効果的展開	3,900,000	1,170,000
基盤研究(C) 継続	精神神経科学	吉村 匡史	講 師	統合失調症患者に対する定量薬物脳波学的研究	300,000	90,000
若手研究(A) 継続	医化学	矢尾 育子	准教授	ユビキチンリガーゼSCRAPPERによる細胞内輸送制御機構の解明	6,800,000	2,040,000
若手研究(B) 継続	形成外科学	覚道奈津子	助 教	幹細胞を用いた脂肪組織再生と血管新生における分子機構の解明	900,000	270,000

(単位:円)

研究種目等	内定件数	交付内定額(直接経費)	交付内定額(間接経費)
新学術領域研究	3	21,400,000	6,420,000
基盤研究(B)	3	11,300,000	3,390,000
基盤研究(C)	1	300,000	90,000
若手研究(A)	1	6,800,000	2,040,000
若手研究(B)	1	900,000	270,000
合 計	9	40,700,000	12,210,000

## 大 学

## 平成25年度科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)交付内定者(代表者)一覧(日本学術振興会)

(単位:円)

研究種目等	研究代表者			研究課題	交付内定額	
					直接経費	間接経費
基盤研究(C) 新規	整形外科学	菅 俊光	准教授	慢性期脳卒中片麻痺患者の痙縮治療を契機に変容する障害体験のモデル化	1,700,000	510,000
	公衆衛生学	三島 伸介	助 教	医療通訳育成のためのモデルコアカリキュラム作成	900,000	270,000
	心理学	西垣 悦代	教 授	日本におけるヘルスコーチングの可能性: コーチング心理学に基づく基盤の確立	1,600,000	480,000
	解剖学第一	森 徹自	講 師	SVZ神経前駆細胞の増殖を調節する神経回路	1,600,000	480,000
	解剖学第二	丸山 正人	講 師	グリオーマ癌幹細胞選択的遺伝子発現システムの構築による新規脳腫瘍治療戦略	1,400,000	420,000
	生理学第一	岡田 誠剛	講 師	飼育環境のストレスに反応し、不安様行動に関与するイオンチャネルの同定	2,600,000	780,000
	衛生学	佐々木 豊	准教授	新規c-kit低発現マウス造血幹細胞の特性と老化における役割の解明	1,500,000	450,000
	生体情報部門	大谷 真志	助 教	獲得免疫反応における樹状細胞のmTORC1の役割	1,300,000	390,000
	医化学	片野 泰代	講 師	慢性疼痛発生維持を担う新規神経障害性疼痛関連分子の解析	1,300,000	390,000
	内科学第二	岩崎 真佳	講 師	多能性ヒトMesoangioblastのoriginと効果的心筋分化誘導法の解明	1,900,000	570,000
	内科学第三	福井 寿朗	講 師	pSmad2/3L-Thrに着目した消化管上皮幹細胞・癌化・再生機構の検討	1,300,000	390,000
	救急医学	津田 雅庸	講 師	原発性胆汁性肝硬変(PBC)における肝繊維化の機序とサイトカインの検討	2,400,000	720,000
	衛生学	藤岡 龍哉	講 師	新規CD34抗原陰性白血病幹細胞の同定とニッチ機能を阻害する抗体療法の開発	1,500,000	450,000
	小児科学	石崎 優子	准教授	視線解析を用いた高機能自閉症スペクトラム障害の早期発見法と社会適応訓練法の開発	2,100,000	630,000
	小児科学	金子 一成	教 授	微小変化型ネフローゼ症候群における標的療法の開発	1,200,000	360,000
	放射線科学	河 相吉	准教授	マウス発がんモデルにおける抗腫瘍剤誘導アポトーシスと腫瘍糖代謝能のイメージング	1,900,000	570,000
	放射線科学	狩谷 秀治	講 師	大量ナノバブルにより増強したキャビテーション効果の医療利用: 血栓溶解効果での評価	900,000	270,000
	放射線科学	谷川 昇	教 授	肝細胞癌に対するRI標識リポドールを用いた新しい放射線塞栓療法の開発	1,500,000	450,000
	麻酔科学	稲田 武文	非常勤講師	プロポフォル・デクスメトミデインの5-リポキシゲナーゼ依存性免疫修飾の研究	1,300,000	390,000
	麻酔科学	西 憲一郎	講 師	生体内酸素代謝がHIF-1を介して細胞間接着装置の機能調節に与える影響の探究	1,900,000	570,000
	腎泌尿器外科学	松田 公志	教 授	磁場発生装置を使用した軟性尿管鏡位置計測システム及びナビゲーションシステムの開発	3,300,000	990,000
耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	岩井 大	准教授	老人性難聴治療に向けた胸腺移植および胸腺移植の検討	1,200,000	360,000	
病理学第二	義澤 克彦	講 師	食品由来抗酸化物質を用いた網膜色素変性症動物モデルでの新規治療法の確立	2,200,000	660,000	



## 大 学

研究種目等	研究代表者			研究課題	交付内定額	
					直接経費	間接経費
基盤研究(C) 新規	薬理学	赤間 智也	准教授	マトリックス蛋白質LTBP2の機能と眼疾患への関与	1,300,000	390,000
	眼科学	三木 克朗	助 教	新生血管阻害剤を付加したセラミック微小球による新しい加齢黄斑変性に対する治療	1,500,000	450,000
	医学教育センター	菅谷 泰行	准教授	世代間交流に基づく「認知症ケアリング教育」のためのプログラムと教材の開発	1,700,000	510,000
基盤研究(C) 継続	衛生学	河野比良夫	講 師	食事制限による生体内酸化ストレス低減：機能的潜在性の再獲得	500,000	150,000
	臨床検査医学	保坂 直樹	講 師	多色細胞系譜追跡法による胸腺上皮細胞ネットワーク構築過程の解析	1,400,000	420,000
	公衆衛生学	三宅 眞理	講 師	介護労働の軽減を目的とした介護プログラムの開発	600,000	180,000
	大学情報センター	渡辺 淳	准教授	診療チーム意思決定のバスケット分析とAPMLを用いた道筋解析と行動予測	300,000	90,000
	内科学第一	野村 昌作	教 授	血管内皮細胞由来マイクロパーティクルによるDIC病態早期診断法の研究	800,000	240,000
	外科学	海堀 昌樹	准教授	手術後創部痛の完全克服を目的とした埋め込み式持続鎮痛ゲルの開発	1,000,000	300,000
	病理学第一	比舎 弘子	講 師	腸幹細胞動員における神経系シグナルの関与の検討：幹細胞分化可視化マウスを用いて	900,000	270,000
	内科学第三	岡崎 和一	教 授	自己免疫性膵炎の発症機序とIgG4産生制御に関する免疫学的研究	800,000	240,000
	内科学第二	宮坂 陽子	講 師	肥満による左室拡張能と血管内皮機能への影響、およびその運動療法の効果に関する検討	400,000	120,000
	内科学第二	大谷 肇	准教授	マイクロRNAを標的とした心筋再生療法に関する研究	2,100,000	630,000
	精神神経科学	加藤 正樹	講 師	うつ病個別化治療アルゴリズムの構築および実臨床使用への発展	1,700,000	510,000
	産科学・婦人科学	岡田 英孝	講 師	細胞外基質Fibulin - 1の解析による着床障害の病態解明	1,200,000	360,000
	産科学・婦人科学	神崎 秀陽	教 授	低酸素・内分泌環境における子宮内膜の血管新生因子の発現調整	1,100,000	330,000
	外科学	濱田 吉則	准教授	EGFとIPCによる小腸移植時における虚血再還流障害の抑制	700,000	210,000
	解剖学第一	高森 康晴	助 教	核ラミナ構築タンパク質の変異で誘導される神経変性疾患の発症機序	900,000	270,000
	解剖学第一	山田 久夫	教 授	海馬ニューロン新生に対する身体運動制御の定量的評価	1,400,000	420,000
	物理学	楠本 邦子 (竹本邦子)	准教授	軟X線マイクロCTによるシアノバクテリア生体高分子可視化による有機物量評価	700,000	210,000
	微生物学	藤澤 順一	教 授	HTLV-1感染ヒト化マウスを用いたATL発症過程特異的細胞変異の同定	1,500,000	450,000
	医化学	松村 伸治	講 師	神経障害性疼痛維持機構の構造的および機能的変化の同時イメージング	1,100,000	330,000
	医化学	西田 和彦	助 教	新規遺伝子改変マウスを用いた疼痛神経回路網の蛍光可視化システムの開発	1,400,000	420,000

## 大 学

研究種目等	研究代表者			研究課題	交付内定額	
					直接経費	間接経費
基盤研究(C) 継続	内科学第三	内田 一茂	講 師	1型自己免疫性膵炎におけるIgG4産生機序と自然免疫の役割	1,300,000	390,000
	内科学第三	西尾 彰功	准教授	膵炎発症における小胞体ストレスの関与と新規治療法の検討	1,300,000	390,000
	微生物学	竹之内徳博	准教授	樹状細胞を介したHTLV-1感染モデルの構築と薬剤スクリーニングへの応用	1,300,000	390,000
	衛生学	藺田 精昭	教 授	ヒト未分化CD34抗原陰性造血幹細胞の特性と分化経路・階層制の解明	1,200,000	360,000
	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	神田 晃	講 師	骨髄移植細胞と胸腺上皮細胞間のcell fusionと免疫寛容	1,400,000	420,000
	内科学第一	伊藤 量基	准教授	線溶系物質による樹状細胞機能の制御：炎症性疾患に向けた新たな治療コンセプトの提案	1,400,000	420,000
	小児科学	高屋 淳二	講 師	胎児の栄養環境と代謝エピジェネティクス制御	1,100,000	330,000
	外科学	権 雅憲	教 授	増殖型遺伝子組換えウイルスを用いた根治不能肝腫瘍に対する新治療法の開発研究	1,300,000	390,000
	腎泌尿器外科学	井上 貴博	助 教	のう胞形成前立腺癌異種移植モデルを用いた前立腺癌分泌蛋白質の発現・機能解析	1,600,000	480,000
	病理学第二	螺良 愛郎	教 授	アラキドン酸によるMNU誘発網膜色素変性症動物モデルの病態制御とその分子機構	1,200,000	360,000
	形成外科学	楠本 健司	教 授	電気穿孔法によるサイトカインの経皮、経潰瘍底導入効果についての実験的研究	1,200,000	360,000
若手研究(B) 新規	生理学第二	則武 厚	助 教	学習に参与する視床下部外側野の多様な報酬情報表現の解説	1,900,000	570,000
	生理学第二	時田 賢一	助 教	報酬獲得行動の駆動における中脳ドパミンニューロンの役割解明	1,300,000	390,000
	微生物学	上野 孝治	助 教	HAM高発症型HTLV-1を用いたHAM指向性決定機構の解析	1,400,000	420,000
	小児科学	木全 貴久	助 教	重症紫斑病性腎炎 (HSPN) に対するシクロスポリンの有効性とその機序に関する検討	600,000	180,000
	精神神経科学	嶽北 佳輝	助 教	統合失調症緊張型に対するm-ECTの生物学的基盤に基づいた治療アルゴリズムの構築	1,700,000	510,000
	放射線科学	吉田 理絵	助 教	経皮的管腔臓器バイパス術の臨床導入：乳糜胸水に対する胸管一下大静脈バイパス術	600,000	180,000
	腎泌尿器外科学	地崎 竜介	助 教	精巣特異的遺伝子movo遺伝子の精子形成に関する研究	1,600,000	480,000
	形成外科学	畔 熱行	助 教	電圧負荷式冷蔵庫（水感庫）における組織保存の検討	1,100,000	330,000
	病理学第二	木村 彩子 (川中彩子)	助 教	食品由来抗酸化物質を用いた歯牙腫動物モデルの治療法確立とその分子基盤の解明	1,800,000	540,000
	外科学	荒木 吉朗	助 教	開腹術後痛モデルの開発と持続性鎮痛ゲル創部埋込みによる新しい開腹術後鎮痛法の開発	1,100,000	330,000
若手研究(B) 継続	内科学第三	村田 美樹	助 教	B型慢性肝炎におけるTGF-βシグナル伝達機構の臨床応用	1,000,000	300,000
	神経内科学	中村 正孝	助 教	筋萎縮性側索硬化症におけるTDP-43陽性封入体の部位別神経変性機序の検討	500,000	150,000

## 大 学

研究種目等	研究代表者			研究課題	交付内定額	
					直接経費	間接経費
若手研究(B) 継続	皮膚科学	植田 郁子	助 教	サルコイドーシスにおけるB細胞およびBAFFの異常と単球の関与	1,900,000	570,000
	放射線科学	津野 隆哉	助 教	IFN- $\alpha$ と放射線治療効果増強に向けたBID分子標的療法の検討	900,000	270,000
	放射線科学	中谷 幸	助 教	CT透視下穿刺支援デバイスシステムの開発	800,000	240,000
	衛生学	中塚 隆介	助 教	細胞外環境が歯髄幹細胞の未分化性維持に及ぼす影響	800,000	240,000
	神経内科学	和手 麗香	講 師	質量顕微鏡を用いた神経細胞内封入体の研究	1,300,000	390,000
	生理学第一	林 美樹夫	助 教	膵臓外分泌細胞に存在する陰イオンチャネル蛋白の構造機能協働	500,000	150,000
	臨床検査医学	吉賀 正亨	助 教	質量顕微鏡を用いた中枢神経系での内因性ジギタリスの産生分泌機構の解明	1,700,000	510,000
	内科学第三	吉田 勝紀	助 教	原発性胆汁性肝硬変症の新たなバイオマーカーと免疫療法の検討	1,200,000	360,000
	衛生学	松岡 由和	助 教	ヒト骨髄ニッチにおける造血幹細胞支持機構の解明と造血幹細胞体外増幅法の開発	1,700,000	510,000
	放射線科学	米虫 敦	助 教	血管内皮カドヘリンを介したタイトジャンクション制御の経動脈的治療への応用	1,000,000	300,000
	精神神経科学	齊藤 幸子	助 教	ミラーニューロンの形態変化：拡散テンソル画像解析による統合失調症治療効果判定	1,200,000	360,000
挑戦的萌芽研究 新規	分子遺伝学部門	片貝 智哉	講 師	リンパ節傍皮質領域FRC特性の人為的発現誘導法の開発	1,700,000	510,000
	生体情報部門	松田 達志	准教授	mTORC1シグナル非依存的な新規B細胞分化機構の解明	1,800,000	540,000
挑戦的萌芽研究 継続	医化学	伊藤 誠二	教 授	多光子励起顕微鏡による痛みのゲートコントロール説の遺伝子改変マウスでの実証	800,000	240,000
	医化学	下條 正仁	講 師	神経因性疼痛における神経選択的スプライシングを標的とした発症機序解明	1,100,000	330,000
	内科学第二	塚口 裕康	講 師	次世代技術を用いた腎糸球体ポドサイトと末梢ニューロンを傷害する疾患遺伝子探査	1,400,000	420,000
	形成外科学	森本 尚樹	講 師	腫瘍細胞を含む切除組織からの脱細胞化および再移植方法の検討	1,400,000	420,000

(単位：円)

研究種目等	内定件数	交付内定額 (直接経費)	交付内定額 (間接経費)
基盤研究 (C)	57	77,800,000	23,340,000
若手研究 (B)	23	27,600,000	8,280,000
挑戦的萌芽研究	6	8,200,000	2,460,000
合 計	86	113,600,000	34,080,000

## 大 学

## 平成25年度科学研究費助成事業(科学研究費補助金・学術研究助成金)交付内定者(代表者)一覧(日本学術振興会)

(単位:円)

研究種目等	研究代表者			研究課題	交付内定額(補助金分)		交付内定額(基金分)		交付内定額(計)	
					直接経費	間接経費	直接経費	間接経費	直接経費	間接経費
基盤研究(B) 新規	分子遺伝学部門	木梨 達雄	教授	Rap1シグナルと哺乳類Hippoによる細胞接着と増殖の統合的制御	2,300,000	690,000	3,600,000	1,080,000	5,900,000	1,770,000
	医化学	伊藤 誠二	教授	蛍光タンパク発現マウスを用いた感覚系入出力における脊髄神経回路網の3次元機能解析	2,400,000	720,000	3,700,000	1,110,000	6,100,000	1,830,000
	放射線科学	播磨 洋子	准教授	分子生物学的手法を用いた進行期子宮頸癌の放射線治療予後予測システムの構築	2,100,000	630,000	3,200,000	960,000	5,300,000	1,590,000
基盤研究(B) 継続	生理学第二	磯田 昌岐	准教授	自己と他者の動作情報の動的脳内表現	3,500,000	1,050,000	1,300,000	390,000	4,800,000	1,440,000
	形成外科学	森本 尚樹	講師	細胞成長因子保持型人工真皮を用いた細胞治療および細胞誘導治療	1,800,000	540,000	900,000	270,000	2,700,000	810,000

(単位:円)

研究種目等	内定件数	交付内定額(直接経費)	交付内定額(間接経費)
基盤研究(B)	5	24,800,000	7,440,000
合計	5	24,800,000	7,440,000

## 平成24年度科学研究費助成事業交付決定(他大学から転入の代表者)一覧(日本学術振興会)

(単位:円)

研究種目等	研究代表者			研究課題	交付決定額	
					直接経費	間接経費
基盤研究(B)	内科学第二	塩島 一朗	教授	インスリンシグナルによる心機能調節機構の解明	5,000,000	1,500,000
挑戦的萌芽研究	内科学第二	塩島 一朗	教授	新生児呼吸窮迫症候群における肺胞上皮Aktシグナルの病態生理学的意義の解明	1,000,000	300,000
基盤研究(B)	整形外科	長谷 公隆	教授	姿勢制御の学習能力評価の標準化と運動療法への応用	2,800,000	840,000
挑戦的萌芽研究	物理学	影島 賢巳	教授	原子間力顕微鏡を用いた光吸収顕微分光法のフィージビリティ検証	1,200,000	360,000
基盤研究(B)	生理学第二	磯田 昌岐	准教授	蛍光タンパク発現マウスを用いた感覚系入出力における脊髄神経回路網の3次元機能解析	6,000,000	1,800,000
基盤研究(B)	形成外科学	森本 尚樹	講師	細胞成長因子保持型人工真皮を用いた細胞治療および細胞誘導治療	3,800,000	1,140,000
挑戦的萌芽研究	形成外科学	森本 尚樹	講師	腫瘍細胞を含む切除組織からの脱細胞化および再移植方法の検討	1,400,000	420,000
基盤研究(C)	腎泌尿器外科学	井上 貴博	助教	のう胞形成前立腺癌異種移植モデルを用いた前立腺癌分泌蛋白質の発現・機能解析	2,100,000	630,000

## 大 学

## 科学研究費助成事業（特別研究員奨励費）一覧（日本学術振興会）

(単位：円)

課題番号	研究代表者			研究課題	交付額(直接経費)		
					23年度	24年度	25年度
23・9224	医化学	内田 仁司	特別研究員 PD	難治性神経因性疼痛を担うエピジェネティクス異常とその調節機構の解明	800,000	800,000	800,000
24・9690	胸部心臓血管 外科学	齊藤 朋人	特別研究員 DC2	XVIVO systemを用いた肺移植後・閉塞室細気管支炎の予防的治療戦略の構築	-	900,000	900,000
24・40147	薬理学	東 淳子	特別研究員 RPD	弾性線維維持・再生におけるDANCEの役割の研究	-	1,200,000	433,888

※特別研究員奨励費…日本学術振興会の特別研究員が行う研究に対し、特別に交付される科研費。

## 平成24年度科研費（分担者）一覧（文部科学省・日本学術振興会）

(単位：円)

研究種目等	研究分担者			研究代表者	直接経費	間接経費
新学術領域研究	分子遺伝学部門	木梨 達雄	教授	名古屋大学 宮田卓樹 教授	600,000	180,000
新学術領域研究	分子遺伝学部門	片貝 智哉	講師	大阪大学 宮坂昌之 名誉教授	10,560,000	3,168,000
基盤研究(A)	内科学第三	岡崎 和一	教授	金沢医科大学 梅原久範 教授	1,000,000	300,000
基盤研究(B)	医化学	矢尾 育子	准教授	がん研究会 松浦正明 部長	500,000	150,000
基盤研究(B)	解剖学第二	丸山 正人	講師	京都大学 服部明 准教授	300,000	90,000
基盤研究(B)	形成外科学	森本 尚樹	講師	京都大学 河合勝也 准教授	400,000	120,000
基盤研究(C)	医化学	伊藤 誠二	教授	大阪工業大学 芦高恵美子 教授	50,000	15,000
基盤研究(C)	解剖学第一	若林 毅俊	准教授	岡山大学 小阪淳 准教授	300,000	90,000
基盤研究(C)	大学情報センター	仲野 俊成	准教授	兵庫医科大学 宮本正喜 教授	100,000	30,000
基盤研究(C)	外科学	山本 大悟	講師	東北大学 山口拓洋 教授	100,000	30,000
基盤研究(C)	内科学第一	稲葉 宗夫	非常勤講師	立命館大学 木村富紀 教授	100,000	30,000

## 平成25年度厚生労働科学研究費補助金交付内定者（代表者）一覧

(単位：円)

研究事業名	研究代表者			研究課題	直接経費	間接経費
地球規模保健課題推進研究事業	整形外科	飯田 寛和	教授	我が国における金属摩耗粉による人工股関節置換術合併症の調査研究	4,650,000	1,350,000
新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業	微生物学	上野 孝治	助教	HTLV-1感染モデルを用いた抗HTLV-1薬の探索および作用機序の解析	3,847,000	1,153,000

## 平成24年度厚生労働科学研究費補助金追加交付者（代表者）一覧

(単位：円)

研究事業名	研究代表者			研究課題	直接経費	間接経費
厚生労働科学特別研究事業	整形外科	飯田 寛和	教授	我が国におけるMetal-on-Metal人工股関節置換術合併症の実態調査研究	7,000,000	2,100,000

## 大 学

## 平成24年度厚生労働科学研究費補助金（分担者）一覧（事務委任分）

（単位：円）

研究事業名	研究分担者			研究課題	研究代表者	直接経費	間接経費
難治性疾患克服 研究事業	微生物学	竹之内徳博	准教授	重症度別治療指針作成に資す HAMの新規バイオマーカー同定 と病因細胞を標的とする新規治 療法の開発	鹿児島大学 教授 出雲 周二	2,000,000	0
	分子遺伝 学部門	木梨 達雄	教 授	IgG4関連疾患に関する調査研究	京都大学 教授 千葉 勉	1,100,000	0
	内科学第二	塚口 裕康	講 師	腎・泌尿器系の希少難治性疾患 群に関する調査研究	神戸大学 教授 飯島 一誠	6,500,000	0
	内科学第三	岡崎 和一	教 授	難治性膀胱疾患に関する調査研究	東北大学 教授 下瀬川 徹	1,400,000	0
	内科学第三	岡崎 和一	教 授	難治性炎症性腸管障害に関する 調査研究	東京医科歯科大学 教授 渡辺 守	1,500,000	0
	内科学第三	岡崎 和一	教 授	IgG4関連疾患に関する調査研究	京都大学 教授 千葉 勉	8,500,000	0
	外科学	濱田 吉則	准教授	小児期からの消化器系希少難治 性疾患群の包括的調査研究と シームレスなガイドライン作成	九州大学 教授 田口 智章	600,000	0
	眼科学	高橋 寛二	教 授	網膜脈絡膜・視神経萎縮症に関 する調査研究	名古屋市立大学 教授 小椋祐一郎	3,000,000	0
免疫アレルギー疾患等 予防・治療研究事業	内科学第一	野村 昌作	教授	灌流法により採取された骨髄細胞 を用いた骨髄内骨髄移植療法 法：基礎から臨床へ	関西医科大学 教授 池原 進	370,000	0
医薬品・医療機器等レ ギュラトリーサイエンス 総合研究事業	小児科学	石崎 優子	准教授	小児等の特殊患者に対する医薬 品の適正使用に関する研究	香川大学 教授 伊藤 進	300,000	0
がん臨床研究事業	外科学	井上健太郎	講 師	治癒切除後の再発リスクが高い 進行胃がん(スキルス胃がんなど) に対する標準的治療の確立に 関する研究	兵庫医科大学 教授 笹子三津留	400,000	0
循環器疾患・糖尿病等 生活習慣病対策総合研 究事業	健康科学	木村 稔	教 授	保健指導の導入による脳卒中・ 心筋梗塞の再発予防効果に関す る研究	広島大学 教授 森山美知子	1,500,000	0
新型インフルエンザ等 新興・再興感染症研究 事業	微生物学	田中 正和	助 教	HTLV-1感染症予防ワクチンの 開発に関する研究	国立感染症研究所 部長 長谷川秀樹	4,000,000	0
肝炎等克服緊急対策研 究事業	外科学	海堀 昌樹	准教授	ウイルス性肝炎患者の食事・ 運動療法とアウトカム評価に関 する研究	岐阜大学 教授 森脇 久隆	2,000,000	0

## 平成24年度厚生労働省がん研究開発費（分担者）一覧（事務委任分）

（単位：円）

研究事業名	研究分担者			研究課題	研究代表者	直接経費	間接経費
がん研究開発費	放射線科学	谷川 昇	教 授	有効なIVR手技の開発と標準化 のための多施設共同研究	独立行政法人国立 がん研究センター 中央病院 副院長/放射線診 断科科长 荒井 保明	950,000	50,000

## 大 学

## 平成24年度厚生労働科学研究費補助金(分担者)一覽(代表者管理分)

(単位:円)

研究事業名	研究分担者			研究課題	研究代表者	直接経費	間接経費
難治性疾患克服研究事業	微生物学	竹之内徳博	准教授	HTLV-1関連脊髄症(HAM)の新規医薬品開発に関する研究	聖マリアンナ医科大学 准教授 山野 嘉久	500,000	0
医療技術実用化総合研究事業 (臨床研究推進研究事業)	外科学	権 雅憲	教授	大腸癌におけるオキサリプラチンの末梢神経障害に対する漢方薬:牛車腎気丸の有用性に関する多施設共同二重盲検ランダム化比較検証試験(臨床第Ⅲ相試験)	九州大学 准教授 掛地 吉弘	2,196,792	0
医療技術実用化総合研究事業	脳神経外科学	浅井 昭雄	教授	初発膠芽種に対する新規放射線科学療法による有効治療法確立のための臨床研究	大阪医科大学 准教授 宮武 伸一	0	0
がん臨床研究事業	産科学・婦人科学	神崎 秀陽	教授	日本における子宮頸癌予防HPVワクチンの医療経済的評価のための大規模臨床研究	大阪大学 准教授 榎本隆之	0	0
	外科学	柳本 泰明	講師	切除不能局所進行腺がんに対する標準的放射線療法との確立に関する研究	杏林大学 教授 古瀬 純司	0	0
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業	健康科学	木村 稔	教授	虚血性心疾患の疾病管理プログラムとしての外来型心臓リハビリテーションの効果と普及方策に関する研究	国立循環器病研究センター 部長 後藤 葉一	0	0
	健康科学	木村 稔	教授	多様なニーズに対応するための新たな保健指導方法の開発に関する研究	国立保健医療科学院 主任研究官 藤井 仁	0	0

## 平成24年度研究助成金等受贈者(採択)一覽

平成24年度に募集のあった各種助成財団による研究助成金等を下記の研究者が贈呈された。

研究助成法人・団体等	受贈者	研究課題等	助成額等
公益財団法人 喫煙科学研究財団 平成24年度研究助成金	内科学第二 西川 光重 教授	脂肪細胞における甲状腺ホルモン代謝と作用に及ぼす喫煙の影響	250万円
一般財団法人 藤井節郎記念大阪基礎医学研究奨励会 平成24年度研究助成金	外科学 里井 壯平 准教授	腺癌における塩酸ゲムシタピンの腫瘍免疫賦活効果の検討	200万円
財団法人 パブリックヘルスリサーチセンター 研究助成金	外科学 山本 大悟 講師	閉経後乳がんの術後内分泌療法5年終了患者に対する治療終了とアナストロゾール5年延長のランダム化比較試験(N-SAS BC05)	5万円
財団法人 パブリックヘルスリサーチセンター 研究助成金	外科学 山本 大悟 講師	レトロゾールによる術前内分泌療法が奏効した閉経後乳がん患者に対する術後化学内分泌療法と内分泌単独療法のランダム化比較試験(N-SAS BC06)	20万円
公益財団法人 喫煙科学研究財団 平成24年度研究助成金	産科学・婦人科学 安田 勝彦 准教授	喫煙婦人の子宮内環境と付随する産婦人科疾患	200万円
公益財団法人 大阪腎臓バンク 平成24年度腎疾患研究助成	小児科学 木全 貴久 助教	小児の特発性ネフローゼ症候群における制御性T細胞の病因的関与に関する研究	50万円
公益財団法人 大阪腎臓バンク 平成24年度腎疾患研究助成	内科学第二 塚口 裕康 講師	卓上次世代シーケンサを用いた難治性ネフローゼの腎移植後再発リスク予測システムの構築	50万円
公益財団法人 日本応用酵素協会 平成24年度酵素研究助成金	医化学 伊藤 誠二 教授	慢性疼痛に関連するプロテインキナーゼG(PKG)の標的タンパクの同定と機能解析	50万円
大学共同利用機関法人 自然科学研究機構 生理学研究所 平成24年度一般共同研究	医化学 片野 泰代 講師	BEGAIN KO マウスを活用した精神疾患の中間表現型の解明	—

## 大 学

研究助成法人・団体等	受贈者	研究課題等	助成額等
大学共同利用機関法人 自然科学研究機構 生理学研究所 平成25年度一般共同研究	医化学 片野 泰代 講師	caskin-1 KOマウスを活用した精神疾患の中間表現型の解明	—
特定非営利活動法人 日本放射線腫瘍学研究所 2012年度研究助成金	放射線科学 播磨 洋子 准教授	子宮頸癌の放射線治療予後予測因子としてのバイオマーカー (ApoC-II) の再現性評価に関する多施設共同前向き試験	20万円
公益財団法人 武田科学振興財団 2012年度医学系研究奨励継続助成 (基礎)	生体情報部門 松田 達志 准教授	抗原提示細胞特異的mTOR経路を介した免疫応答調節機構の解明	300万円
公益財団法人 武田科学振興財団 2012年度医学系研究奨励 (精神・神経・脳領域)	医化学 矢尾 育子 准教授	イメージングマスマスベクトロメトリーを利用した神経変性疾患発症の分子メカニズムの解明	300万円
公益財団法人 成長科学協会 平成24年度研究助成	小児科学 高屋 淳二 講師	SGAの発達障害を成長ホルモンは改善できるか	50万円
公益財団法人 森永奉仕会 平成23年度研究奨励金	小児科学 中野 景司 助教	リアルタイムPCRを用いたマクロライド耐性マイコプラズマに対する治療戦略の検討	40万円
財団法人 がん集学的治療研究財団 研究助成金	外科学 井上 健太郎 講師	治癒切除不能な進行・再発胃癌症例におけるHER2の検討－観察研究－ (JFMC44-1101)	8万円
財団法人 パブリックヘルスリサーチセンター 研究助成金	外科学 岩本 慈能 講師	治癒切除不能進行・再発大腸癌に対する初回化学療法の治療成績のプール解析による検討	52万円
公益財団法人 車両競技公益資金記念財団 平成25年度助成金	薬理学 中邨 智之 教授	動脈弾性板の形成・破壊の分子機構とその動脈疾患における役割	900万円
国立大学法人東京大学 医科学研究所 平成25年度共同研究	外科学 海堀 昌樹 准教授	ヒト肝細胞がんに対する増殖型遺伝子組換えウイルスを用いた新治療法の開発研究	—
国立大学法人東京大学 医科学研究所 平成25年度共同研究	内科学第一 伊藤 量基 准教授	ヒトToll様受容体の発現と機能の解析	—
徳島大学疾患酵素学研究センター 平成25年度共同利用・共同研究 「酵素学研究拠点」	薬理学 中邨 智之 教授	質量分析法によるlysyl oxidaseの酵素活性部位の検出と活性化機構の解明	—
財団法人 がん集学的治療研究財団 研究助成金	外科学 井上健太郎 講師	切除不能進行・再発胃癌症例に対するTS-1の連日投与方法および隔日投与方法のランダム化第2相試験 (JFMC43-1003)	5万円
財団法人 パブリックヘルスリサーチセンター 研究助成金	外科学 柳本 泰明 講師	切除不能進行胃癌 (局所進行又は転移性) に対するTS-1通常投与方法とTS-1隔日投与方法のランダム化第II相試験 (胃癌隔日投与方法研究)	4万円



## 大 学

## 平成24年度内閣府、文部科学省、経済産業省、(独)科学技術振興機構 競争的・非競争的資金採択一覧

(単位:円)

事業名	所管組織等	研究課題名	研究代表者	共同研究者、研究分担者	直接経費	間接経費
内閣府 最先端・次世代研究開発支援プログラム	内閣府	組織幹細胞の次世代イメージングを通じた治療標的膜蛋白質の同定と新しいがん治療法の開発	病理学第一講座 上野 博夫 教授	—	41,893,000	12,567,900
内閣府 最先端・次世代研究開発支援プログラム	内閣府	生体組織の伸縮性を生み出す仕組みの研究	薬理学講座 中邨 智之 教授	—	34,355,000	10,300,500
文部科学省 研究開発施設共用等促進費補助金(橋渡し研究支援)	文科省	低侵襲手術支援システムの実用化開発と臨床研究	浜松医科大 他	耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科学講座 友田 幸一 教授	350,000	—
文部科学省 科学技術試験研究委託事業 次世代がん研究戦略推進プロジェクト	文科省	がん幹細胞を標的とした根治療法の開発	大阪大学 他	衛生学講座 菌田 精昭 教授	1,545,455	154,545
(独)科学技術振興機構 戦略的創造研究推進事業 CREST	JST	接着制御シグナルの破綻と自己免疫疾患	附属生命医学研究所 分子遺伝学部門 木梨 達雄 教授	内科学第三講座 岡崎 和一 教授	32,200,000	9,660,000
(独)科学技術振興機構 戦略的創造研究推進事業 さきかけ	JST	ドパミン-セロトニン相互抑制による報酬・嫌悪情報処理機構	生理学第二講座 中村 加枝 教授	—	13,350,000	4,005,000
(独)科学技術振興機構 戦略的創造研究推進事業 さきかけ	JST	質量顕微鏡法による神経伝達物質のイメージング	医化学講座 矢尾 育子 准教授	—	6,480,000	1,944,000
(独)科学技術振興機構 研究成果展開事業 A-STEP探索タイプ	JST	網膜神経節細胞選択的に遺伝子導入が可能なレンチウイルスベクターの開発	解剖学第一講座 若林 毅俊 准教授	—	423,077	126,923
(独)科学技術振興機構 研究成果展開事業 A-STEP探索タイプ	JST	関節症診断マーカーとしての抗低硫酸化型ケラタン硫酸モノクローナル抗体作成	薬理学講座 赤間 智也 准教授	—	647,693	194,307
(独)科学技術振興機構 研究成果展開事業 A-STEP探索タイプ	JST	ヒト造血幹細胞の陽性分子マーカーの同定と特異抗体産生システムの開発	衛生学講座 菌田 精昭 教授	—	450,000	135,000
(独)科学技術振興機構 研究成果展開事業 A-STEP探索タイプ	JST	高齢者の生活習慣病・認知症予防改善作用を期待される新リン脂質(P1)食材の開発(ヒト臨床テストによる効果の検証)	薬理学講座 北川 香織 助教	—	1,071,000	321,300
(独)科学技術振興機構 研究成果展開事業 A-STEP探索タイプ	JST	抗HTLV-I薬の開発研究	長崎大学	微生物学講座 竹之内徳博 准教授	400,000	120,000
(独)科学技術振興機構 研究成果展開事業 A-STEPシーズ顕在化タイプ	JST	巨大母斑(黒あざ)患者組織を脱細胞化し皮膚再生に使用する新規加圧処理治療法の開発	ニプロ株式会社 他	形成外科学講座 森本 尚樹 講師	—	※H24年度については配分なし
(独)科学技術振興機構 研究成果展開事業 先端計測・機器開発プログラム 開発成果の活用・普及促進	JST	顕微質量分析装置の活用・普及促進	がん研究会、慶応大、 浜松医大 他	医化学講座 矢尾 育子 准教授	200,000	60,000
(独)科学技術振興機構 戦略的国際科学技術協力推進事業	JST	内向き整流性K <sup>+</sup> チャネルへのバイオメディシン	生理学第一講座 岡田 誠剛 講師	メキシコ国立自治大学	5,460,000	540,000
経済産業省 課題解決型医療機器等開発事業	経産省	高性能骨導素子を用いた骨導補聴器の開発 ※民間企業3社と本学との共同推進プロジェクト	耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科学講座 友田 幸一 教授 (プロジェクトリーダー)	・形成外科学講座 楠本 健司 教授 ・公衆衛生学講座 三宅 真理 講師	32,235,924	—

## 病 院

## ◆4～6月の主な行事

日程	行事名	場 所
4月6日	市民公開講座	アルカスホール
4月9,16日,6月24日	医療安全講演会	附属滝井病院
4月11,18日,5月16日	医療安全講習会	附属枚方病院
4月20日	寝屋川市医師会・香里病院地域連携の会	ホテルアゴラ大阪守口
4月26日	刺股・護身術講習会	附属枚方病院
4月26日	ニューイヤーパーティー	附属滝井病院
5月1日	院内ミニコンサート	附属枚方病院
5月17日	防災講演会	附属滝井病院
5月21日	院内感染対策研修会	附属滝井病院
5月22,27日	院内ラウンド	附属枚方病院

日程	行事名	場 所
5月23日	刺股・護身術実技訓練及び安全講習会	附属滝井病院
5月30日	循環器救急フォーラム	ホテルアゴラ大阪守口
5月30日	ピネル抑制帯実践研修会	附属滝井病院
5月31日	春季消防訓練	附属枚方病院
6月1日	認知症サポーター養成講座	附属枚方病院
6月4日	臨床検査セミナー	附属枚方病院
6月7日	感染対策講習会	附属枚方病院
6月10,14日	治験セミナー	附属滝井病院
6月21日	褥瘡対策セミナー	附属枚方病院
6月30日	リウマチ市民公開講座	ルミエールホール

## 附属枚方病院

スタッフが防犯意識を向上  
刺股・護身術講習会開催

4月26日(金)に附属枚方病院13階合同カンファレンスルームにおいて、刺股・護身術講習会が実施されました。枚方警察署から3名の警察官を講師に迎え、最近の犯罪傾向の説明の後、実際に刺股を使用した護身術の訓練が行われました。中でも、自分の身を守るのに役に立つ護身術は、特に多くの女性参加者に好評でした。また、講習会の受講者全員に枚方警察から引ったくり防止カバーが配られ、参加者は防犯意識を高めました。

護身術について警察官から指導を受けるスタッフ

本番さながらの消火活動  
春季消防訓練の実施

5月31日(金)午後3時55分から、春季消防訓練が実施されました。開院以来、多くの職員が訓練を経験することを目的に毎回出火場所を変えての訓練を実施しており、今回は8N病棟を出火階と想定して行われました。今回も参加したスタッフは本番さながら真剣に取り組み、充実した訓練となりました。訓練終了後には、地下ドライエリアにおいて、通常、廊下に設置されている屋内消火栓を使用した放水訓練が行われました。



火元の病室の重症患者をドクターが救出、搬送する訓練

敷地内のごみを集める職員ボランティア



## 職員ボランティアが敷地内清掃

5月9日～20日の月、木曜日の始業時間前(8:40～9:00)に、職員ボランティアによる敷地内のクリーンアップ作戦を実施しました。作戦ではガムやタバコの吸殻、落葉拾いなどを行い、参加者は敷地内の美化に向けて懸命に取り組みました。病院周辺の道や植え込みの中などには、まだタバコの吸殻が見受けられますので、あらためて敷地内禁煙にご理解とご協力をお願いします。

## 院内保育所が夜間保育スタート 夜勤の看護職員対象

育児支援及び労働環境の整備の一環として、4月19日(金)から院内保育所における夜間保育を始めました。子育て中の働く女性看護職員からの要望を受けてスタートした取組みで、第1・3・5の金曜日に夜勤の看護職員を対象に実施しています。利用者からは「今後も活用したい」と好評で、女性のライフサイクルに合わせてワークライフバランスが調整でき、勤務継続できることで、看護職としてのキャリア形成の支援につながっています。

## 病 院

## 附属滝井病院

## 第1回滝井血管病セミナー大盛会

大盛況の重松先生のご講演



6月7日(金)午後6時から、附属滝井病院南館臨床講堂において、職員の血管病に対する意識の向上を目的に、滝井病院血管内治療センター主催の「第1回滝井血管病セミナー」が開催されました。今回は、東京・医療法人財団山王メディカルセンター血管病センター長の重松宏先生をお招きし「PAD-全身の血管を診る窓-」と題して動脈硬化性血管病全般に関してご講演いただきました。先生は我が国の脈管学の重鎮でありますが、時折ユーモアを交えながら今後の高齢化社会に向けて医療人としてなくてはならない血管病の知識をわかりやすく解説されました。関係各位の協力により、参加者は150名を上回り、大盛会裡に終了しました。血管内治療センターでは今後も定期的に血管病に携わる著名な先生方をお招きしてセミナーを続けていく予定ですので、今後ともご期待ください。

## 自衛消防隊研修大会出場に向け結団式実施

平成25年9月10日(火)に守口市門真市消防組合で開催予定の「第55回自衛消防隊研修大会(主催：守口門真防火協会)」の屋内消火栓競技の部に、昨年に引き続き男性看護師チームが出場することとなり、6月12日(水)に結団式が行われました。出場者を代表して小林慧看護師から、関西医大職員としての誇りを胸に一生懸命訓練を重ねていく旨の力強い宣誓がなされました。さらに、岩坂壽二病院長から激励の訓示を受け、早速、猛訓練をスタートさせました。本学のロゴが入ったTシャツを着用し、チームメンバー3名は心を一つにして頂点を目指しますので、ぜひ熱い応援をお願いします。

チームメンバーは次の通りです。

指揮者：松田浩行(4S病棟)、1番員：山田創(3S病棟)、2番員：小林慧(1S病棟)



結団式で力強く宣誓するメンバー

## 災害に強い組織目指して 防災講演会開催

5月17日(金)午後5時30分から、附属滝井病院南館2階臨床講堂において「防災講演会」が開催されました。この講演会は各職場における防災への取り組みのヒントとなり、災害に強く、安全・安心な関西医科大学に向けた職員の意識改革につなげることが目的で、各職場の防災担当者をはじめとした約100名の職員が集まり、会場は満員となりました。第1部では同病院の仙田恵造参事が、近い将来に発生が危惧されている南海トラフ巨大地震等に備え、減災に向けて平素から各職場でどのように取り組んでいけば良いかを熱く語りました。第2部では、東日本大震災時に即出動した緊急消防援助隊大阪府隊救急部隊長と、生存限界といわれている72時間を超えた92時間後に70歳代の女性を救出した同隊の救助小隊長が当時の様子をスライドで説明されました。さらに、第3部ではパネルディスカッションが行われ、4名の消防職員が防災・減災についての様々なポイントについて話されました。会場からは、大地震の記憶が蘇り、平素からの心構えや準備が非常に大切だと改めて痛感したとの声が聞かれました。

## 附属香里病院

## 「高齢化社会の生活の質保つ」テーマに市民公開講座

4月6日(土)午後2時30分から、寝屋川市のアルカスホールで市民公開講座が開催され、146名が参加しました。冒頭、高山康夫病院長が挨拶を行い、座長は眼科学講座の埴本慎講師(香里病院眼科)・市民公開講座委員長が務めました。メインテーマを「高齢化社会に向けて生活の質を保つために」とし、腎泌尿器外科学講座の福井勝也助教(同院腎泌尿器外科)が「過活動膀胱について」、高山病院長が「増加する慢性心不全について」と題してそれぞれ講演しました。



講演する高山病院長

## 病 院

冒頭に挨拶される早川医師会長



## 寝屋川市医師会との地域連携の会開催

4月20日(土)午後4時から、ホテルアゴーラ大阪守口で寝屋川市医師会と香里病院との地域連携の会が開催され、医師会側から39名、当院から31名の参加がありました。高山康夫病院長と早川貫治寝屋川市医師会長の挨拶を皮切りに、高橋延行地域医療連携部長が座長を務め、外科学講座の金成泰診療講師(香里病院外科講師)の「胃全摘術を施行した同時性多発早期胃癌の1例」、内科学第二講座の吉田衣江助教(香里病院内科)の「甲状腺中毒症の2症例」の症例呈示がそれぞれありました。また、内科学第三講座の大宮美香診療講師(香里病院内科講師)による「H. Pylori感染症と除菌治療の適応拡大について」の題名のミニレクチャーが行われ、最後に、整形外科講座の長谷公隆診療教授(枚方病院リハビリテーション科)による「地域医療におけるリハビリテーションの役割」の題名の教育講演がありました。講演会終了後は懇親会が開催され、盛会裡に終了しました。

## 卒後臨床研修センター

## ◆4～6月の主な行事

日程	行事名	場 所
4月13日	初期臨床研修合同説明会	リーガロイヤルホテル
5月19日	eレジフェア2013in大阪出展	大阪ATC
5月26日	レジナビフェア2013 in 大阪(後期研修)出展	コングレコンベンションセンター

日程	行事名	場 所
6月1日	後期臨床研修説明会	附属枚方病院
6月29日	看護職実地指導者研修会	
6月30日	レジナビフェア2013in大阪(初期研修)出展	インテックス大阪

## 科別ブースが盛況 本学後期臨床研修医募集中間説明会開催



科別ブースで説明を聞く参加者

6月1日(土)午後4時から附属枚方病院13階講堂と合同カンファレンスルームなどを会場に、後期臨床研修医募集のための各診療科合同による説明会が開催されました。今年度は初期研修1年目の研修医も対象にしたことから、本学研修医39名、他病院の研修医8名と多くの参加がありました。金子一成卒後臨床研修センター長からの挨拶の後、22診療科が出展したブース形式の科別説明会が行われました。参加した学内外の研修医は興味のある診療科のブースを訪れ、熱心に説明を聞いていました。科別説明会終了後にはレストラン「のぞみ」で情報交換会が行われ、参加者は各診療科の教員から研修先に関するアドバイスを受けるなど交流を深めていました。

## 看護実践支援部門主催 看護実践支援部門のリーダーシップ研修開催

看護実践支援部門ではより一層の教育体制の充実のため、指導者育成強化に取り組んでおり、その一環として6月29日(土)にOffice SMCの木村卓氏を講師に迎え、実地指導者として活躍している中堅看護職員を対象とした研修会を開催しました。「リーダーシップ研修 ～チームワーク、コミュニケーション力を高めよう～」をテーマとして、体験型学習を通じてコミュニケーションやモチベーションコントロールなどの重要な要素を学び、有意義な研修会となりました。



体験型学習を通じてコミュニケーションなどを学びました

## eレジ・レジナビフェア出展

下記日程にて初期研修医、後期研修医獲得のため、本学の臨床研修をアピールするフェアに出展しました。



本学をPRするボードやポスターで彩り、来場者で賑わう本学ブース＝レジナビフェア(初期研修)

日程	行事名	開催場所	参加申込数	来場者数	関医来訪者数
5月19日(日) 10時～17時	eレジフェア (初期研修)	ATCホール	1,685名	639名	58名
5月26日(日) 12時～17時	レジナビフェア (後期研修)	ナレッジキャピタルコングレ コンベンションセンター	318名	248名	15名
6月30日(日) 10時～17時	レジナビフェア (初期研修)	インテックス大阪	1,874名	1,552名	100名

## 附属看護専門学校

### ◆4～6月の主な行事

日程	行事名	場 所
5月10日	戴帽式	高殿学舎

日程	行事名	場 所
6月11日	防犯訓練講習会	高殿学舎

### 看護師としての責任を自覚 平成25年度戴帽式

ロウソクの灯りで幻想的な雰囲気に包まれる会場



5月10日(金)午前10時から附属看護専門学校講堂において、岡崎和一学校長、岩坂壽二常務理事をはじめ、看護部関係者、さらに保護者ら多数の出席を得て、平成25年度戴帽式が挙行されました。看護学科33期生一人ひとりにナースキャップが被せられ、戴帽生は看護の職業に対する情熱や人の命に関わる責任を自覚するとともに専門的な知識・技術、さらに看護師としてふさわしい態度の習得に向けて、決意を新たにしました。

なお、今年度8月末から牧野キャンパスへ移転するため、高殿学舎での戴帽式は今回が最後となります。

### ちかん撃退に向け護身術学ぶ 防犯訓練講習会

6月11日(火)午後2時40分から「ちかん撃退法等防犯訓練講習会」が附属看護専門学校講堂で実施されました。この講習会は毎年、大阪府警の協力を得て実施されているもので、看護学科1学年83名が参加しました。講習会では旭区内における犯罪の発生状況についての講話の後、ひったくりやちかんの対策について実演を交えながら説明が行われ、警察官から「日頃から防犯対策を心掛けることが大切」との呼び掛けがありました。また、ちかん撃退に向けた護身術の訓練も行われ、学生らは腕をつかまれた時の振り払い方などを学びました。



実演を交えながら護身術の訓練が行われました

### オープンキャンパスのお知らせ

7月30日(火)と9月21日(土)の2日間、附属看護専門学校のオープンキャンパスを開催します。会場は両日も8月に移転する牧野キャンパスで、いずれも午前10時から2時間を予定しています。



#### ■日 時

第1回：7月30日(火)午前10時～正午

第2回：9月21日(土)午前10時～正午

#### ■会 場

関西医科大学牧野キャンパス

大阪府枚方市宇山東町18-89

(京阪電車「牧野」駅から徒歩10分)

#### ■申込み・問い合わせ先

関西医科大学附属看護専門学校事務室

電話 06-6954-2021(高殿学舎)

072-856-2121(牧野キャンパス、8月5日以降)

## 同窓会

## 建学の精神の礎である学歌「のぞみ」と校風「自由・自律・自学」

財団法人加多乃会理事 大内 雅文(50回生)

高等学校までの校歌は、入学式、卒業式の他、文化祭、体育祭などで何度も口ずさみ、親しみを感じることは多かったと思いますが、学歌はどうでしょう。多くの体育系の部活が対外試合を行う総合大学ではその応援シーンなどで斉唱される機会が多いかもしれません。しかし本学のような単科大学では学歌を斉唱する機会が殆どなく、親しみを感じる同窓生の方々は多くはないと思います。恥ずかしながら、私自身も最近まで学歌に興味を抱くこともなく、どのような方が作詞・作曲されたものなのか、歌詞の内容がいかなるものなのかも理解せずに過ごしてまいりました。財)加多乃会理事になってからは毎年同窓会総会に出席し、学歌「のぞみ」を斉唱する機会に恵まれるようになり、次第に自ずと学歌「のぞみ」について興味が湧き、その詳細を調べてみたくなりました。

学歌は学校創設者の建学の精神に基づいて、創設者自身が作詞を手掛ける、あるいはその理念を有名な作家や作曲家に説明して創作して頂くというのが一般的です。しかし本学の場合は特異的であり、建学の精神は明確ではなく、それを端的に表現する標語も存在しませんでした。関西医科大学創立75周年である平成15年6月21日に「建学の精神」教育の理念」制定報告会が開催され、「慈仁心鏡」という標語が建学の精神であると宣言されました。「慈仁心鏡」は学歌「のぞみ」の3番の「慈仁(めぐみ)を心の鏡となして」の歌詞から引用された独自の造語です。「関西医科大学八十年の歩み」や「関西医科大学の創設史をめぐって」を精読して驚いたことは、作詞者の宮前澄子先輩は当時弱冠19歳。なんと関西医科大学の前身である大阪女子高等医学専門学校の2回生で本科2年生であったことです。本学の第1回入学試験における国語の解釈問題(初代校長の和辻春次先生の甥である哲学者の和辻哲郎氏が春次先生の建学の理念を理解され創作されたと推定される)やその時の校是「為良」の精神を理解されて作詞されたものと推測されます。作曲の石井五郎氏はプロレタリア音楽同盟の一員で、『石井五郎賞』という音楽賞もあるのでその当時の有名な作曲家の方であったと思います。昭和7年2月11日に開催された審査会(教員と学生とにより構成された)で、首位当選した秀逸作「のぞみ」はかくして本学学歌として誕生いたしました。

第6代田代裕学長のご指摘のように、歌詞の前半は1番に桓武天皇らの鷹狩りを、2番に伊勢物語の惟喬親王と在原業平の渚の院での観桜の会を、3番に紀貫之の土佐日記所載の渚の院の松を主題とした優雅かつ文学的で女子医専に相応しい格調高いものです。これとは対照的に、「いざやいざ」以下の後半では「永久に栄えあれ わが学び舎よ」、「もろとも踏まむ 医の道を」、「もろとも行かむ 栄えある道を」など随所に男勝りとも言いましようか、これまでの女子学校の学歌のイメージを払拭する力強さが感じら

れる雄々しいフレーズが見られることが独創的で、感銘を受けました。

母校創設は昭和3年6月30日です。その当時の歴史背景は昭和2年4月には日本で金融恐慌が始まり、昭和4年10月には世界恐慌が発生した時代です。創設者の濱地藤太郎先生の個人的信用だけでは銀行から多額の融資を受けることが不可能な事態に陥っておりました。後に学歌の生みの親となる宮前澄子先輩が入学され、半年も経たない昭和4年9月には本学の経営危機が表面化し、さぞやショックを受けられたことと思います。この時在校生達は直ちにクラス会を開催し、母校存続運動を学生が立ち上げ、全員でこの問題を討議し、7名の専任委員を選び、その他の学生は学業に専念できるようにされたそうです。冷静で熱意ある学生の母校存続活動が学校関係役員や父兄会を動かし、昭和5年には経営危機を脱することができたそうです。この時の気持ちを表現されたのが学歌「のぞみ」の歌詞ではないでしょうか。この民主的かつ理性的で情熱的な危機管理能力に長けた行動は、本学の校風である「自由・自律・自学」の源であり、同窓生として誇りに思います。「私達のような未熟な学生でも皆で力を合わせ、目標を見失わずに努力すれば、危機を乗り越え母校の基盤を固めることができました。後輩達よ、この学び舎で良医を目指し勉学に励んでください」という意図が伝わってきます。

本学1回生で初代同窓会会長であった川那辺喜美子先生が、同窓会創立30周年を期して加多乃会の前身である加多乃会特別基金(カタノ ファウンデーション)を立ち上げられました。これにより現在に至るまで同窓会生や母校関西医科大学への研究助成を行っています。これは先生が学生時代に母校の経営破綻の危機を経験されたことに加え、欧米を視察した際に多くの病院や研究所などがそれぞれの基金を設立しており、資金や労力の協力を得て活発に事業展開していることに感銘を受けられたことが発端となり、広く同窓生に寄付を呼び掛けられ基金の設立をされました。これも校風の「自由・自律・自学」の精神の表れだと思います。

建学の精神の礎である学歌「のぞみ」の歌詞と加多乃会特別基金のいずれも本学の先輩が自主的に創られ、精神的および経済的な支えになっていることは本学卒業生として誇りに思います。現在新学舎・研究棟も完成し、平成28年には滝井病院も新築完成予定です。ハード面では関西医科大学創立以来最も充実した環境となりました。このような時こそ、建学の精神や校風を再確認することが必要と思います。本年11月3日に「関西医科大学同窓会創立80周年・財団法人加多乃会設立40周年記念祝賀会」があります。この時に多くの同窓生が一堂に会して、学歌「のぞみ」を合唱し、建学の精神や校風を再認識して頂ければ幸いです。

同窓会

学歌  
のぞみ  
宮前澄子 作詞  
石井五郎 作曲

一、上代人の御狩りせし地ぞ

なつかし わが交野の原

日々仰ぎ見る 生駒嶺のごと

雄々しく生きむ 医の道に

いざや いざや いざや いざや

永久に栄あれ わが学び舎よ

二、上代人のさくら狩りせし

なつかし わが交野の原

日々匂ひたる 渚の岡に

永久に妙なる 花と咲かまし

いざや いざや いざや いざや

もろともに踏まむ 医の道を

三、常磐の松の緑のごとく

気高き希望 うち抱き

慈仁を心の 鏡となして

雄々しく生きむ 医の道に

いざや いざや いざや いざや

もろともに行かむ 栄えある道を

関西医科大学同窓会創立80周年 財団法人「加多乃会」設立40周年  
記念祝賀会のお知らせ

◆枚方新学舎施設見学会

日時：11月3日(祝日・文化の日)  
午前9時  
集合：枚方新学舎前  
(京阪電車枚方市駅下車)  
※玄関にて係の者がお待ちしております。

◆記念式典 講演会・祝賀会

日時：11月3日(祝日・文化の日)  
午前11時30分  
場所：リーガロイヤルホテル大阪  
2階「山楽の間」  
(大阪市北区中之島)  
TEL06-6448-1121  
会費：3万円

◆記念親睦ゴルフコンペ

日時：11月4日(月・振替休日)  
午前8時スタート  
集合：枚方カントリー倶楽部  
(枚方市杉江町)  
TEL 072-858-8331  
※会費等の詳細は参加希望者に後日  
ご連絡いたします。

お申込み・お問合せ：記念祝賀会準備委員会事務局 電話 072-804-2171まで

メディア情報

教職員メディア情報

新聞・雑誌・テレビ等マスコミの取材、テレビ出演、また記事を掲載された教職員の方々を紹介します。

(平成25年4月1日～6月30日 \*判明分のみ)

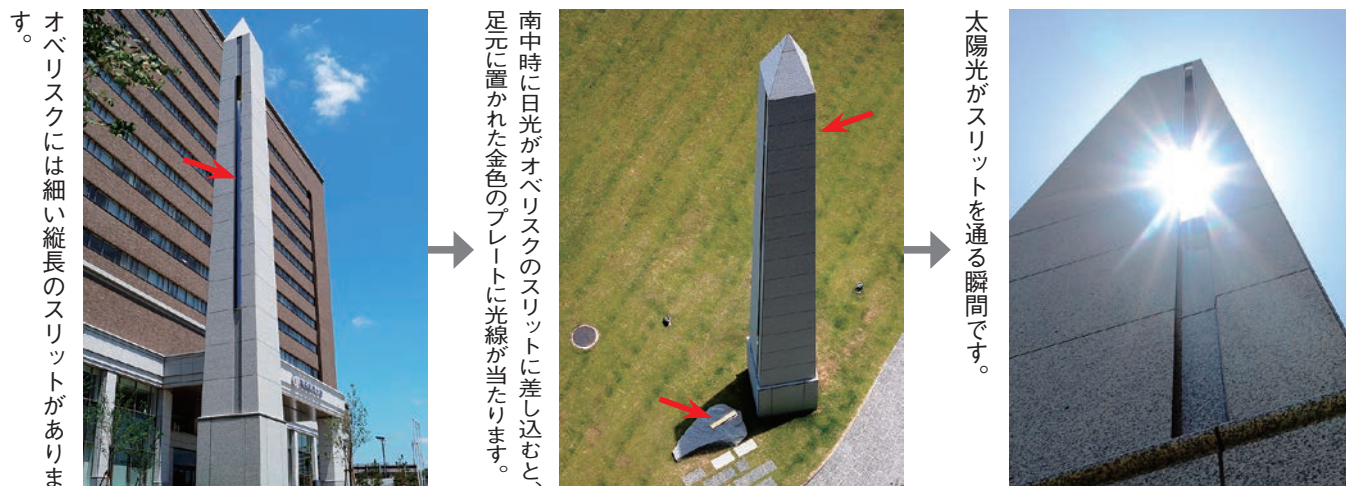
関西医科大学	日本経済新聞 4月2日(火)	食物アレルギーについて、その原因となる牛乳や卵を少しずつ摂取し続ける「経口免疫療法」を工夫し、副作用を抑えながら改善していく手法を本学研究チームが考案したという記事が掲載されました。
福永幹彦教授 (心療内科学講座)	週刊朝日 4月12日(金)号	「過敏性腸症候群(IBS)」をテーマにした記事で福永教授のコメントが掲載され、心理療法を用いて症状をコントロールする訓練法などが紹介されました。
谷内昇一郎准教授 (小児科学講座)	日本経済新聞 4月12日(金)	「食物アレルギー食べて克服」をテーマにした記事で、アレルギーの原因となる食べ物を食べて克服する「免疫克服療法」に関する記事が掲載されました。
岩坂壽二病院長 (附属滝井病院)	産経新聞 5月1日(水)	5月1日に開設された附属滝井病院の透析センターの概要と岩坂病院長のコメントが掲載されました。
海堀昌樹准教授 (外科学講座)	毎日新聞 5月10日(金)	5月11日に附属枚方病院で開催の「沈黙の臓器「肝臓」の治療最前線」をテーマにした市民公開講座の開催概要と海堀准教授のコメントが掲載されました。
赤根敦教授 (法医学講座)	朝日新聞(西部本社版) 5月13日(月)	「飯塚事件」(1992年)のDNA鑑定をめぐる記事で、当時のDNA鑑定に対するコメントが掲載されました。
山下敏夫 理事長・学長	日本経済新聞 5月21日(火)	連載コーナー「交遊抄」に山下敏夫理事長・学長のコラムが掲載されました。
福永幹彦教授 (心療内科学講座)	朝日新聞 5月28日(火)～6月2日(日)	「食事という苦行」がテーマの連載記事「患者を生きる」(6回連載)で、このうち計5回、「機能的ディスペプシア」という症状の患者さんに対する福永教授の治療法やコメントが掲載されました。
上野博夫教授 (病理学第一講座)	朝日新聞 6月6日(木)	上野教授らのグループが舌の表面の組織をつくったり、修復したりする幹細胞をマウスで見つけたという内容の記事が掲載されました。
岩坂壽二病院長 (附属滝井病院)	日本経済新聞 6月10日(月)	連載コーナー「菓立ちの教室」で、大阪府立勝山高校に在籍していた頃を振り返るコラムが掲載されました。
附属滝井病院 山本大悟講師 (外科学講座)	産経新聞 6月25日(火)	附属滝井病院が7月に乳がん検査用の「3Dマンモグラフィ」を導入する、という記事が掲載されました。この機器は国内で3番目、近畿で初の導入で、機器に関する山本講師(同院乳腺外科長)のコメントが掲載されました。
高橋寛二教授 (眼科学講座)	関西テレビ 「スーパーニュースアンカー」 6月27日(木)午後5時8分頃	理化学研究所と先端医療センターが申請した、世界初のiPS細胞を使った網膜再生の臨床研究が条件付きで了承されることについて、その期待と課題についてコメントしました。
田中義人助教 (形成外科学講座)	産経新聞 6月29日(土)	乳がん患者が切除・再建手術の後、体に合わせたブラジャーを着用すると形状維持とともに美しく乳房を形成できることがわかったという、岡山大学病院乳がん治療・再建センターなどの臨床研究についてのコメントが掲載されました。

※このコーナーは主要な放送局、新聞、雑誌の掲載情報が対象ですが、研究成果に関する記事は、その限りではございません。

## お知らせ

## オベリスクと創立記念日

枚方学舎のオベリスクには縦長の細いスリットが入っており、夏至の季節の正午にスリットを通った太陽光が細い光軸として表れ、オベリスクの足元に置かれた金色の記念プレートに照らすよう設計されています。また、創立記念日は夏至の季節で、塔の日中の影がくっきりするため、その中の光軸は強調されます。一定の期間、お祝いの光で演出します。



右の写真を拡大しました。スポットライトを当てたように太陽光がプレートを照らします。



スリットを通過した太陽光が金色のプレートを指し示します。

## 編集後記

気象庁によると、今年の8月は平年よりも気温が高い日が多いと予想されています。既に7月は猛暑日が続いており、さらにアブラゼミの初鳴き日が観測史上最も早かった地点もあるなど、アツい夏を予感させます。

アツい夏といえば、今年の本学入試イベント。一般入試の試験会場が前回の東京に加えて名古屋、福岡も追加され計4会場になったことに伴い、今年には全国各地の合同入試説明会に出展、回数も大幅に増やし、広く本学のPR活動を展開しています。

さらに、例年1回のみだったオープンキャンパスを今年は2回開催します。枚方学舎では初めての開催で、例年以上に“アツい”内容となっています。とはいえ、会場は冷房が効いていますので、ご安心下さい。(起)

平成24年度事業報告書を  
Webサイトに掲載しました

平成24年度の事業報告書を本学Webサイトに掲載しました。以下のURLからご覧下さい。

[http://www.kmu.ac.jp/general\\_info/u-annai12.html](http://www.kmu.ac.jp/general_info/u-annai12.html)

## 関西医科大学広報 Vol.22

発行 学校法人 関西医科大学  
編集 総務部 広報課  
〒573-1010 大阪府枚方市新町2-5-1  
TEL 072-804-0101(代表)  
FAX 072-804-2547

<http://www.kmu.ac.jp>

E-mail [kmuinfo@hirakata.kmu.ac.jp](mailto:kmuinfo@hirakata.kmu.ac.jp)

平成25年7月25日(木)発行